

💡 よくわかる 簿記シリーズ

合格 テキスト

TEXT

日商簿記 2 級 商業簿記

TAC簿記検定講座

Ver. 8.0



TAC出版

01 一般商品売買

Theme



ここでは、3級の復習も含めた一般商品売買の期中処理と、重要論点である決算時の処理について学習する。

Date.1 / Date.2 / Date.3 /

1 商品売買の期中処理(三分法)

3級で学習済み

三分法とは、商品の売買を仕入勘定（費用）・売上勘定（収益）・繰越商品勘定（資産）の3つの勘定に分割して記入する方法である。

1. 仕入れおよび仕入戻し、仕入値引・仕入割戻の処理

商品を仕入れたときは、仕入勘定の借方に原価を記入する。また、返品したときは取引を取り消すために、値引き・割戻し（リバート）を受けたときは原価の修正をするために、仕入勘定の貸方に記入する。

仕訳例 01

① 仕入れのとき

商品1,000円を仕入れ、代金は掛けとした。

(仕 入)	1,000	(買 掛 金)	1,000
-------	-------	---------	-------

② 仕入戻しのとき

掛けで仕入れた商品のうち、100円を品違いのため返品した。

(買 掛 金)	100	(仕 入)	100
---------	-----	-------	-----

③ 仕入値引のとき

掛けで仕入れた商品が破損していたため、50円の値引きを受けた。

(買 掛 金)	50	(仕 入)	50
---------	----	-------	----

④ 仕入割戻のとき

仕入先からの仕入量が一定量となったため、割戻し50円を受け、掛け代金と相殺した。

(買 掛 金)	50	(仕 入)	50
---------	----	-------	----

⊕	仕 入	⊖
総 仕 入 高 1,000	仕入戻し高	100
	仕入値引高	50
	仕入割戻高	50
	純仕入高 800	

(注) 三分法における仕入勘定の残高は、総仕入高から仕入戻し高と仕入値引高、仕入割戻高を控除した純仕入高を示す。

2. 販売および売上戻り、売上値引・売上割戻の処理

商品を販売したときは、売上勘定の貸方に売価を記入する。また、返品されたときは取引を取り消すために、値引き・割戻し（リベート）したときは売価の修正をするために、売上勘定の借方に記入する。

仕訳例 02

① 販売のとき

商品1,000円を販売し、代金は掛けとした。

(売 掛 金) 1,000 (売 上) 1,000

② 売上戻りのとき

掛けで販売した商品のうち、100円が品違いのため返品された。

(売 上) 100 (売 掛 金) 100

③ 売上値引のとき

掛けで販売した商品が破損していたため、50円の値引きを行った。

(売 上) 50 (売 掛 金) 50

④ 売上割戻のとき

得意先への販売量が一定量となったため、割戻し50円を行い、掛け代金と相殺した。

(売 上) 50 (売 掛 金) 50

⊖	売	上	⊕
売上戻り高	100		
売上値引高	50		
売上割戻高	50		
		総 売 上 高	
		1,000	
純売上高	800		

(注) 三分法における売上勘定の残高は、総売上高から売上戻り高と売上値引高、売上割戻高を控除した純売上高を示す。



3. 諸掛りの処理

諸掛り^{しょうがかり}とは商品の移動にかかる費用で、商品を仕入れる際に発生する引取運賃などの仕入諸掛りと、商品を販売する際に発生する発送運賃などの売上諸掛りがある。

(1) 仕入諸掛り

仕入諸掛りは商品原価の一部と考え、仕入勘定に含めて処理する。

仕訳例 03

商品1,000円を仕入れ、代金は掛けとした。引取費用50円は現金で支払った。

(仕	入)	1,050	(買	掛	金)	1,000
			(現	金)		50

(2) 売上諸掛り

売上諸掛りは商品販売のために要した販売費として、発送費勘定（費用）で処理する。

仕訳例 04

商品1,000円を販売し、代金は掛けとした。発送費用50円は現金で支払った。

(売	掛	金)	1,000	(売	上)	1,000
(発	送	費)*	50	(現	金)	50

* 発送費勘定は「支払運賃」などで処理することもある。

2 割引き

1. 割引きとは

掛け代金の決済を支払期日前のあらかじめ定められた一定期間内に行った場合、売主が買主に対して利息相当額を掛け代金から免除することを割引き^{わりび}（ディスカウント）という。



2. 割引きの処理

(1) 仕入割引

仕入側では、買掛金の一部を免除してもらった金額について、受取利息と同様の性格を有する仕入割引勘定（収益）で処理する。

仕訳例 05

① 仕入れのとき

商品5,000円を「30日後払い、ただし10日以内に支払うときは2%引き」の条件で仕入れた。

(仕	入)	5,000	(買	掛	金)	5,000
----	----	-------	----	---	----	-------

② 仕入割引のとき

買掛金5,000円の支払いにつき、割引有効期限内であることから2%の割引を受け、残額を小切手を振り出して支払った。

(買	掛	金)	5,000	(当	座	預	金)	4,900
				(仕	入	割	引)	100

(2) 売上割引

販売側では、売掛金の一部を免除した金額について、支払利息と同様の性格を有する売上^{うりあげ}割引^{わりびき}勘定（費用）で処理する。

仕訳例 06

① 売上げのとき

商品5,000円を「30日後払い、ただし10日以内に支払うときは2%引き」の条件で販売した。

(売	掛	金)	5,000	(売	上)	5,000
----	---	----	-------	----	----	-------

② 売上割引のとき

売掛金5,000円の回収につき、割引有効期限内であることから2%の割引を行い、残額を小切手で受け取った。

(現	金)	4,900	(売	掛	金)	5,000
(売	上	割	引)	100		

3 売上原価の計算

一般商品売上の会計処理の目的は、(1)一会計期間における商品販売損益（売上総利益）と(2)期末における商品の有高を勘定上で明らかにすることである。三分法による処理を行った場合、決算整理前における仕入勘定の残高は当期の仕入高を、売上勘定の残高は当期の売上高を示しており、このままでは目的を達成できない。

そこで、仕入勘定（または売上原価勘定）で売上原価を計算するとともに、繰越商品勘定の残高が商品の期末有高を示すようにするために、決算整理が必要となる。

$$\text{売上高} - \text{売上原価} = \text{売上総利益}$$

$$\text{売上原価} = \text{期首商品棚卸高} + \text{当期商品仕入高} - \text{期末商品棚卸高}$$

設例 1-1

次の決算整理事項にもとづいて、精算表（一部）を完成しなさい。

（決算整理事項）

期末商品棚卸高は 4,000 円である。売上原価は「仕入」の行で計算すること。

精 算 表

（単位：円）

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	2,000							
売 上		12,000						
仕 入	8,000							

〈解答・解説〉

精 算 表

（単位：円）

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	2,000		4,000	2,000			4,000	
売 上		12,000				12,000		
仕 入	8,000		2,000	4,000	6,000			

(仕 入) 2,000 (繰越商品) 2,000 〈期首商品〉
(繰越商品) 4,000 (仕 入) 4,000 〈期末商品〉

(注) 当期仕入8,000円に期首商品2,000円を加えた10,000円(当期の商品販売可能高)のうち、売れた分の6,000円(売上原価)は費用として仕入勘定の残高に、残った分の4,000円(期末商品棚卸高)は資産として繰越商品勘定の残高になる。



* 決算整理「前」における繰越商品勘定の残高は期首商品棚卸高を示す。

4 商品の期末評価

商品の期末評価の流れは次のとおりである。

- (1) 期末商品帳簿棚卸高および売上原価の計算
- (2) 棚卸減耗損の計上
- (3) 商品評価損の計上

1. 期末商品帳簿棚卸高および売上原価の計算

企業は、通常、商品有高帳を設けて商品の受け入れ・払い出しを継続的に記録し、各時点での商品有高を明らかにする。この商品有高帳における期末商品有高のことを期末商品帳簿棚卸高といい、このような期末商品有高の把握方法を継続記録法という。

期末商品の金額は、まず、この期末商品帳簿棚卸高を明らかにし、売上原価の計算を行う。

$$\begin{array}{lcl} \text{期末商品帳簿棚卸高} & = & @原価 \times \text{帳簿棚卸数量} \\ \text{売上原価} & = & \text{期首商品棚卸高} + \text{当期商品仕入高} - \text{期末商品帳簿棚卸高} \end{array}$$

なお、商品有高帳において、期末商品帳簿棚卸高は期末の帳簿棚卸数量に仕入単価（@原価）を掛けて計算する。この仕入単価を決定する方法として、①先入先出法、②移動平均法、③総平均法がある。

2. 棚卸減耗損の計上

企業は、期末に商品の棚卸しを行う。この実地棚卸による期末在庫数量を^{じつち たなおろしすうりょう}実地棚卸数量、期末商品有高のことを^{たなおろしげんもう}実地棚卸原価という。

実地棚卸を行うことで、紛失・盗難などが原因で帳簿棚卸数量より実地棚卸数量が減少している場合、これを知ることができる。この数量の減少のことを^{たなおろしげんもう}棚卸減耗といい、繰越商品勘定から減らすとともに、棚卸減耗損勘定（費用）または棚卸減耗費勘定（費用）で処理する。

@原価	
実地棚卸原価 （「商品」の B/S 価額）	棚 卸 減 耗 損
実地数量	帳簿数量

$$\text{棚卸減耗損} = @原価 \times (\text{帳簿棚卸数量} - \text{実地棚卸数量})$$

3. 商品評価損の計上

期末商品の時価（正味売却価額）が原価（実地棚卸原価）より下落した場合、これを「収益性の低下」という。この収益性の低下が認められる場合、原価を時価まで切り下げる。この切下額を商品評価損といい、繰越商品勘定から減らすとともに商品評価損勘定（費用）で処理する。

（注1）期末商品の時価には正味売却価額（売ったらいくら？）が用いられる。また、時価の下落とは、市場価格の下落のほかに、品質の低下などによる価値の下落も含む。

@原価	商品評価損	棚卸減耗損
@時価	「商品」の B/S 価額	
	実地数量	帳簿数量

$$\text{商品評価損} = (\text{@原価} - \text{@時価}) \times \text{実地棚卸数量}$$

（注2）期末商品の実地棚卸原価（@原価×実地数量）よりも正味売却価額（@時価×実地数量）が高い場合は、実地棚卸原価をもって貸借対照表価額とする。したがって、商品評価益は計上しない。

参 考

棚卸計算法

棚卸計算法とは、商品有高帳にもとづく継続的な記録を行わず、期末に実地棚卸を行うことによって期末時点の商品有高を把握する方法である。

この場合、売上原価は期末商品実地棚卸原価をもとに次の算式により計算する。

$$\text{売上原価} = \text{期首商品棚卸高} + \text{当期商品仕入高} - \text{期末商品実地棚卸原価}$$

棚卸計算法のみを採用した場合は、期末商品帳簿棚卸高（あるべき期末商品棚卸高）が不明なため、棚卸減耗がある場合、棚卸減耗損が自動的に売上原価に算入されてしまう。

設例 1-2

次の決算整理事項にもとづいて、決算整理仕訳を示し、精算表を完成しなさい。売上原価は仕入勘定で計算すること。なお、棚卸減耗損および商品評価損は売上原価に算入しない。

(決算整理事項)

商品の期末棚卸高は次のとおりである。

帳簿棚卸高 数量 4 個 原 価 @ 1,000 円

実地棚卸高 数量 3 個 正味売却価額 @ 900 円

精 算 表

(単位：円)

勘 定 科 目	試 算 表		修 正 記 入		損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
繰 越 商 品	2,000							
売 上		12,000						
仕 入	8,000							
棚 卸 減 耗 損								
商 品 評 価 損								

〈解答・解説〉

精 算 表

(単位：円)

勘 定 科 目	試 算 表		修 正 記 入		損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
繰 越 商 品	2,000		4,000	2,000			2,700	
				1,000				
				300				
売 上		12,000				12,000		
仕 入	8,000		2,000	4,000	6,000			
棚 卸 減 耗 損			1,000		1,000			
商 品 評 価 損			300		300			

① (仕 入)	2,000	(繰 越 商 品)	2,000
② (繰 越 商 品)	4,000	(仕 入)	4,000
③ (棚 卸 減 耗 損)	1,000	(繰 越 商 品)	1,000
④ (商 品 評 価 損)	300	(繰 越 商 品)	300

02 特殊商品売買

T h e m e

Check ここでは、特殊商品売買の期中処理について学習する。

Date.1

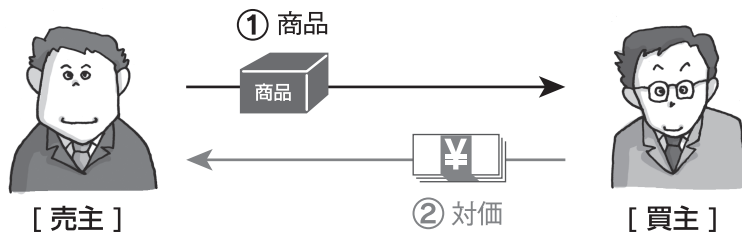
Date.2

Date.3

1 一般商品売買と特殊商品売買

売上収益は、①商品の発送もしくは引き渡しと②対価の受け入れ（受取手形や売掛金などの資産の取得を含む）という販売の2要件が満たされた時点で計上する。これを販売基準といい、売上収益の原則的な計上基準である。

通常の販売形態（一般商品売買）の場合には、販売基準により商品が販売されたときに売上収益を計上する。



また、予約販売、未着品販売、委託販売、試用販売、割賦販売などの特殊な販売形態（特殊商品売買）の場合にも、原則として販売基準によって売上収益を計上しなければならないが、例外的な計上基準も認められている。

販 売 形 態	原 則(販売基準)	例 外
予 約 販 売	・ 予約金受取額のうち、決算日までに商品の引き渡しなどが完了した分	
未 着 品 販 売	・ 貨物代表証券を転売した日	
委 託 販 売	・ 受託者が委託品を販売した日	・ 仕切精算書（売上計算書）が販売のつど送付される場合に限り、その仕切精算書が到達した日（仕切精算書到達日基準）
試 用 販 売	・ 得意先が買い取りの意思表示した日	
割 賦 販 売	・ 商品などを引き渡した日	・ 割賦金の入金の日（回収基準） ・ 割賦金（分割代金）の回収期限の到来の日（1級の範囲）

2 予約販売とは

予約販売とは、代金を前もって予約金として受け取っておき、後から商品の引き渡しを行う販売形態で、出版業界に多くみられる。

1. 予約金を受け取ったとき

予約金を受け取った時点では売上収益を計上せず、商品を引き渡す義務を前受金勘定（負債）で処理しておく。

なぜなら、予約金を受け取った時点では「対価の受け入れ」という要件は満たしているが、「商品の発送もしくは引き渡し」という要件が満たされていないからである。

仕訳例 01

関東出版株式会社は、美術全集の予約販売を企画したところ、申し込みがあり、予約金10,000円（全10巻分）を現金で受け取った。

（現	金）	10,000		（前	受	金）*	10,000
----	----	--------	--	----	---	-----	--------

* 「前受金」は「予約販売前受金」とすることもある。

2. 商品を発送もしくは引き渡したとき

商品を発送もしくは引き渡した時点で、原則的な計上基準である販売基準の2要件が満たされることから、発送した商品の分だけ売上収益を計上する。

仕訳例 02

関東出版株式会社は、美術全集の第1巻が完成したので予約者に発送した。

（前	受	金）*	1,000		（売	上）	1,000
----	---	-----	-------	--	----	----	-------

* $10,000円 \div 10巻 = 1,000円$

基本例題02

□check!

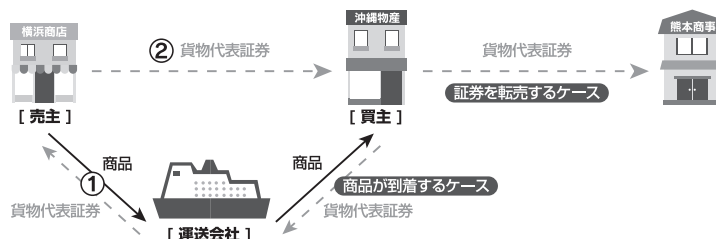
次の取引について仕訳しなさい。

- (1) 東北出版株式会社は、百科事典（全10巻、1巻の予約販売価格500円）の予約販売を企画したところ、100セットの申し込みがあり、予約代金総額500,000円を現金で受け取った。
なお、百科事典は完成した巻から順次、予約者に配本する予定である。
- (2) 上記の百科事典の第1巻が完成したので、これを予約者に発送した。

3 未着品販売とは

運送業者が発行する貨物の^{あずか}預り証を貨物代表証券といい、運送業者から貨物を引き取る権利を表す。この貨物代表証券によって表される商品を未着品といい、商品が到着する前に貨物代表証券のまま他人に転売することを未着品販売という。貨物代表証券には、陸運会社が発行する^{ひきかえしょう}引換証と海運会社が発行する^{ふいふにしょうけん}船荷証券とがある。

ここでは、簿記検定試験2級で主に^{てもと}出題されている手許商品区分法を前提にその処理を確認する。手許商品区分法とは、手許にある商品の原価と未着品販売にかかる貨物代表証券の原価を区別して処理する方法である。



(1) 貨物代表証券を受け取ったとき

貨物代表証券を受け取ったときは、手許にある商品（手許商品）と区別するために、仕入勘定ではなく未着品勘定（資産）で処理する。

仕訳例 03

沖縄物産は、横浜商店から注文した商品10,000円の船荷証券を受け取り、代金は掛けとした。

(未 着 品) 10,000 (買 掛 金) 10,000

未 着 品

10,000

(2) 商品が到着したとき

商品が到着したときは、未着品勘定から仕入勘定へ到着分の原価を振り替える。また、商品の引き取りに要した諸費用は、仕入諸掛りとして仕入原価に加算する。

仕訳例 04

かねて購入していた船荷証券6,000円につき商品が到着したので、この証券と引き換えに商品を引き取った。なお、その際に引取費用300円を現金で支払った。

(仕	入)	6,300	(未	着	品)	6,000
			(現	金)	300	
未			仕			
着			入			
品						
10,000	6,000	→	6,300			
		⋮				
		諸掛⊕300				

(3) 貨物代表証券のまま転売したとき

商品が到着する前に貨物代表証券のまま転売したときは、未着品売上勘定（収益）に売価で記入して、売上収益を計上する。さらに、仕入勘定で売上原価を計算するために、未着品勘定から仕入勘定へ転売分の原価（売上原価）を振り替える。なお、仕入勘定への振り替えについて、期末に一括して振り替える方法もある。

仕訳例 05

かねて購入していた船荷証券4,000円を熊本商事へ7,000円で転売し、代金は掛けとした。なお、これにともなう売上原価は仕入勘定に振り替える。

(売	掛	金)	7,000	(未	着	品	売	上)*	7,000
(仕	入)	4,000	(未	着	品)	4,000			
未			仕						
着			入						
品									
10,000	6,000	→	6,300						
	4,000		4,000						

* 「未着品売上」は「売上」とすることもある。

簿記検定試験2級では、[仕訳例5]のような、そのつど売上原価を振り替える方法が主に問題されている。

基本例題03

□check!

次の取引について仕訳しなさい。

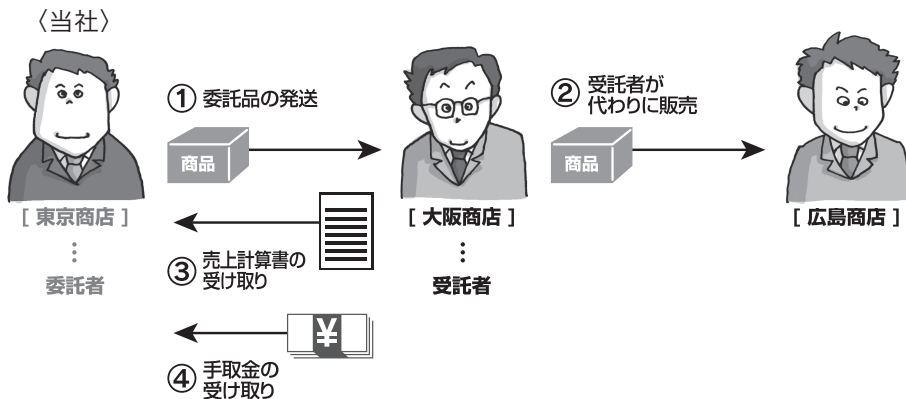
- 梅田商店に注文した商品3,000円の船荷証券を受け取り、代金は掛けとした。
- かねて購入していた船荷証券2,000円につき、商品が到着したので、この証券と引き換えに商品を引き取った。なお、その際に引取費用50円を現金で支払った。
- かねて購入していた船荷証券1,000円を札幌商事へ1,500円で転売し、代金は掛けとした。なお、これにともなう売上原価は仕入勘定に振り替える。

4 委託販売

委託販売とは、商品の販売を代理店などに委託し、手数料を払って商品を販売する形態をいう。なお、委託品を発送することを積送^{せきそう}といい、委託品のことを積送品^{せきそうひん}という。

委託販売の売上収益は、原則として販売基準により受託者が委託品を販売した日をもって計上する。ただし、仕切精算書^{しきりせいさんしょ}（売上計算書）が販売のつど送付されている場合は、仕切精算書が到達した日をもって売上収益を計上することもできる（仕切精算書到達日基準）。

また、その会計処理は、簿記検定試験2級で主に出题されている手許商品区分法を前提に確認する。手許商品区分法とは、手許にある商品の原価と委託販売に係る積送品の原価を区別して処理する方法である。



1. 委託品を発送したとき

委託品（積送品）を発送（積送）したときは、商品が手許^{てもと}からなくなることから、手許にある商品と区別するために、その商品の原価を仕入勘定から積送品勘定（資産）に振り替える。このときに発送運賃などの諸掛^{しよが}りを支払ったときは、積送品の原価に加算する。

仕訳例 06

東京商店は、委託販売のため商品（仕入原価1,000円、販売価格1,500円）を大阪商店へ発送し、発送運賃などの諸掛80円を現金で支払った。

(積送品)		1,080	(仕入)		1,000
			(現金)		80
仕入			積送品		
当期仕入	1,000	→	1,080		
		諸掛 ⁺ 80			

(注1) 委託者側からは委託品、受託者側からは受託品という。

(注2) 運賃などの諸掛りは、積送諸掛勘定(費用)で処理することもある。

2. 受託者が代わりに販売したとき

販売基準では、委託者は受託者が委託品を販売したときに売上収益を計上するが、仕切精算書到達日基準では、仕切精算書が到達したときに売上収益を計上する。

仕訳例 07

大阪商店では、東京商店より販売を委託された商品（販売価格1,500円）を広島商店に販売し、代金は現金で受け取った。

なお、東京商店は売上収益の計上基準に仕切精算書到達日基準を採用している。

仕 訳 な し*

* 仕切精算書到達日基準では、委託者は受託者が委託品を販売したときに売上収益を計上しない。

3. 仕切精算書を受け取ったとき

仕切精算書（売上計算書）を受け取ったときは、積送品売上勘定（収益）に受託者の販売額で記入して、売上収益を計上する（総額法）。このときの代金未収分は委託販売勘定の借方に記入する。なお、受託者が委託品を販売するために立替払いした諸掛りと販売手数料は、積送諸掛勘定（費用）に記入するとともに委託販売勘定の貸方に記入する。さらに、仕入勘定で売上原価を計算するために、その原価を積送品勘定から仕入勘定へ振り替える。なお、仕入勘定への振り替えについては、期末に一括して振り替える方法もあるので、問題の指示にしたがうこと。

（注1）委託販売の売上収益は、受託者の販売額から積送諸掛りを相殺した手取金の金額をもって計上することもできる（純額法）。

（注2）委託販売勘定が借方残高であるときは売掛金（資産）、貸方残高であるときは前受金（負債）を意味する。このような勘定を混合勘定という。

仕訳例 08

東京商店は、大阪商店から次の売上計算書を受け取った。受託者の販売額をもって売上げに計上する方法によること。なお、東京商店は、これにともなう売上原価1,080円を積送品勘定から仕入勘定へ振り替える。

売 上 計 算 書			
売 上 代 金		1,500円	…積送品売上
諸 掛 り			} 積送諸掛
引 取 費	10円		
発 送 費	50	60	
販 売 手 数 料		150	} …委託販売
手 取 金		<u>1,290円</u>	

(委 託 販 売)*	1,290	(積 送 品 売 上)*	1,500
(積 送 諸 掛)	210		
(仕 入)	1,080	(積 送 品)	1,080

* 「積送品売上」は「売上」、「委託販売」は「積送売掛金」で処理することもある。

★supplement

手取金をもって売上げに計上する方法(純額法)

手取金をもって売上げに計上する方法(純額法)では、積送諸掛と積送品売上を相殺して〔仕訳例8〕の取引を次のように処理する。

(委 託 販 売)	1,290	(積 送 品 売 上)	1,290
(仕 入)	1,080	(積 送 品)	1,080

4. 受託者から手取金を受け取ったとき

販売額から諸掛りと販売手数料を差し引いた手取金を受託者から受け取ったときは、手取金を委託販売勘定の貸方に記入する。

仕訳例 09

東京商店は大阪商店から手取金1,290円を同店振り出しの小切手で受け取った。

(現 金)	1,290	(委 託 販 売)	1,290
-------	-------	-----------	-------

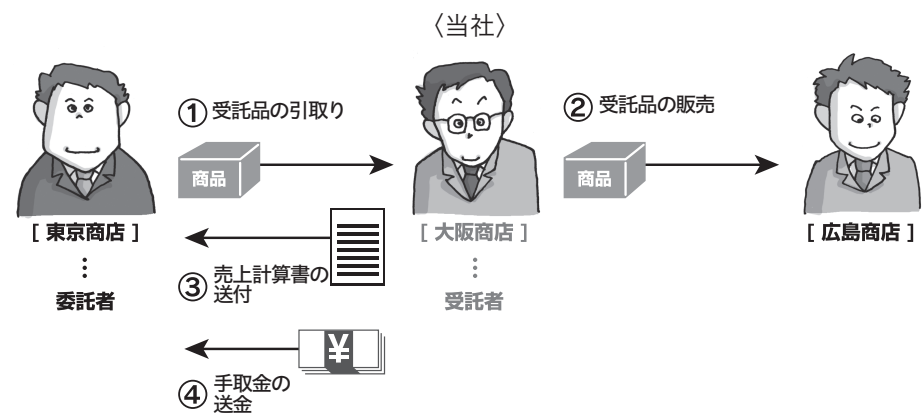
5 受託販売

受託販売とは、委託者の代理店として商品を販売することをいい、委託販売を受託者側からみた販売形態をいう。

受託販売では、商品を販売したときに売上収益を計上しない。なぜなら、その商品は自己の商品ではなく、あくまでも委託者の商品だからである。受け取った商品代金は後日、委託者へ渡さなければならない預り金となる。また、受託品に関して引取費用や保管料、発送費用などを立替払いしていれば、委託者へ請求することができる。このような委託者に対する債権・債務は受託販売勘定で処理する。

受 託 販 売			
債 権		債 務	
(立 替 金)		(預 り 金)	

(注) 受託販売勘定が借方残高であるときは立替金(資産)、貸方残高であるときは預り金(負債)を意味する。このような勘定を混合勘定という。



1. 受託品を受け取ったとき

受託品を受け取ったとしても、商品はあくまでも委託者のものであるため、受託品を受け取っただけでは仕訳は不要である。ただし、このときに引取費用などを支払った場合は、委託者が負担すべき費用を立替払いしたことになるので、委託者に対する債権が生じる。そこで、この立替分を受託販売勘定の借方に記入する。

仕訳例 10

大阪商店は、東京商店より販売を委託された商品（販売価格1,500円）を受け取った。その際に引取費用10円を現金で支払った。

(受 託 販 売) 10 (現 金) 10

受 託 販 売	
①引取費用	10

2. 受託品を販売したとき

受託品の販売は、自己の商品を販売したのではないため、売上収益は計上できない。しかし、これにより受け取った代金は、委託者が受け取るべきものを一時的に預かったものなので、預り金として受託販売勘定の貸方に記入する。

また、このときに発送費用などを支払った場合は、委託者が負担すべき費用を立替払いしたことになるので、これを受託販売勘定の借方に記入する。

仕訳例 11

大阪商店は、東京商店より販売を委託された商品（販売価格1,500円）を広島商店に販売し、代金は現金で受け取った。その際に発送費用50円を現金で支払った。

(現金)	1,500	(受託販売)	1,500
(受託販売)	50	(現金)	50

受託販売			
①引取費用	10	②売上代金	1,500
②発送費用	50		

(注) 商品代金を現金で受け取らず掛けとした場合は、次のようになる。

(売掛金)	1,500	(受託販売)	1,500
(受託販売)	50	(現金)	50

3. 仕切精算書を作成し、送付したとき

仕切精算書（売上計算書）を作成し、送付したときは販売手数料を計上する。

受託者の収益となる販売手数料は受取手数料勘定（収益）で処理する。また、委託者に対する請求額は受託販売勘定の借方に記入する。

(注) 立替払いした費用のうち、受託販売勘定で処理していないものがあるときは、このタイミングで精算する。

仕訳例 12

大阪商店は次の売上計算書を作成し、東京商店に送付した。

売上計算書		
売上代金		1,500円
諸掛り		
引取費	10円	
発送費	50	60
販売手数料		150
手取金		<u>1,290円</u>

(受託販売) 150 (受取手数料)* 150

* 諸掛り(引取費および発送費)は計上済であるため、ここでは「仕訳なし」となる(前記仕訳例参照)。また、「受取手数料」は「受託販売手数料」とすることもある。

受託販売		
①引取費用	10	②売上代金
②発送費用	50	1,500
③手数料	150	

Theme
02

特殊
商品
売買

4. 委託者に手取金を送金したとき

受託販売勘定の貸方残高は、委託者に対する要送金額(手取金)を意味するので、これを送金したときは受託販売勘定の借方に記入する。

仕訳例 13

大阪商店は東京商店に手取金1,290円を小切手を振り出して送付した。

(受託販売) 1,290 (当座預金) 1,290

受託販売		
①引取費用	10	②売上代金
②発送費用	50	1,500
③手数料	150	
④送金額	1,290	

基本例題04

□check!

次の取引について横浜商店と神戸商店の仕訳をしなさい。

- (1) 横浜商店は、委託販売のため商品（仕入原価3,000円、販売価格4,500円）を神戸商店へ発送し、運賃などの諸掛り90円を現金で支払った。なお、神戸商店は引取費用30円を現金で支払った。
- (2) 神戸商店ではすべての商品（販売価格4,500円）が掛けで販売された。その際、発送費用50円を現金で支払った。なお、横浜商店は売上計算書を受け取ったときに売上げを計上する方法によっている（仕切精算書到達日基準）。
- (3) 横浜商店は、神戸商店から次の売上計算書を受け取った。発送した商品はすべて販売されたが、受託者の販売額をもって売上げを計上すること。なお、横浜商店は、これにともなう売上原価を仕入勘定に振り替える。神戸商店は保管料20円につき、保管料勘定より振り替える。

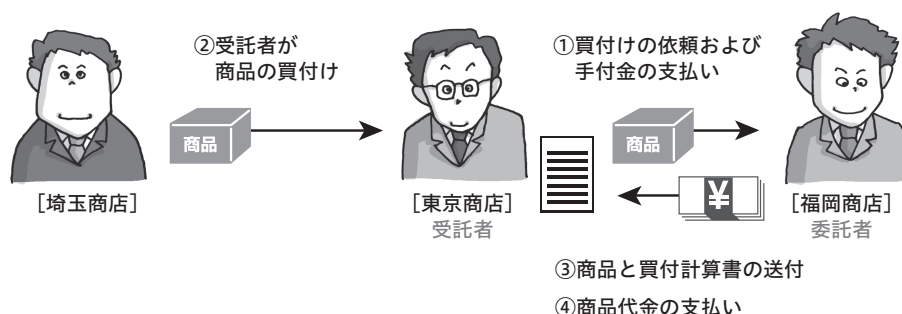
売 上 計 算 書			
売 上 代 金			4,500円
諸 掛 り			
引 取 費	30円		
発 送 費	50		
保 管 料	20	100	
販 売 手 数 料		800	
手 取 金			<u>3,600円</u>

- (4) 神戸商店から手取金3,600円を小切手で受け取った。

委託買付と受託買付

委託買付とは商品の購入（仕入れ）を代理店などに委託し、手数料を支払って商品を購入する形態をいう。

商品の買付委託にあたって、手付金を支払ったときは委託買付勘定の借方に記入する。この委託買付勘定は受託者に対する債権・債務を処理する勘定（混合勘定）である。



委託買付

債 権	債 務
(前 払 金)	(買 掛 金)

受託買付とは委託者である第三者から商品の購入を委託され、委託者に代わって商品を購入し、後日これを委託者に送付する形態をいう。受託者は商品の買付けにより手数料を得ることができる。

受託買付では、商品を購入したとき、仕入勘定へは計上しない。なぜならば、その商品は自己の商品ではなく、あくまでも委託者の商品だからである。買い付けた商品代金は後日、委託者から回収されるべき債権（立替金）である。また買い付けた商品に関して引取費用や保管料、発送費用などを立替払いしていれば、委託者へ請求することができる。委託者に対する債権・債務は受託買付勘定（混合勘定）で処理する。

受託買付

債 権	債 務
(立 替 金)	(預 り 金)

①買付けを委託したとき

(1) 買付けを委託したとき

商品の買付けを委託しただけでは、単なる契約なので簿記上の取引にはあたらない。委託にあたって商品代金の一部または全部を支払ったときは、委託買付勘定で処理する。

(2) 買付けを受託したとき

商品の買付けを受託しただけでは、単なる契約なので簿記上の取引にはあたらない。受託にあたって商品代金の一部または全部を受け取ったときは、受託買付勘定の貸方に記入する。委託者から受け取った現金等は商品の買付けのためのものであるから、預り金として受託買付勘定で処理する。

■ 仕訳例

福岡商店は東京商店に商品150,000円の買付けを依頼し、手付金50,000円を小切手を振り出して支払った。

(1) 委託者側

(委 託 買 付)	50,000	(当 座 預 金)	50,000
-----------	--------	-----------	--------

* 委託買付勘定を使用しないで「前払金勘定」で処理する方法もある。

(2) 受託者側

(現金)	50,000	(受託買付)	50,000
------	--------	--------	--------

* 受託買付勘定を使用しないで「預り金勘定」を使用する方法もある。

②商品を買い付けたとき

受託者が委託された商品を買付けたときは、受託買付勘定の借方に記入する。なぜならば、その商品は自己の商品ではなく、あくまでも委託者の商品だからである。買い付けた商品代金は後日、委託者から回収されるべき債権（立替金）である。また買い付けた商品に関して引取費用や保管料、発送費用などを立替払いしていれば、委託者へ請求することができる。

■ 仕訳例

東京商店は福岡商店より買付けを委託された商品150,000円を埼玉商店より買い入れ、代金のうち60,000円は小切手を振り出して支払い、残額は掛けとした。

(1) 委託者側

仕 訳 な し

(2) 受託者側

(受 託 買 付)	150,000	(当 座 預 金)	60,000
-----------	---------	-----------	--------

(買掛金)	90,000
-------	--------

* 受託買付勘定を使用しないで「立替金」で処理する方法もある。

(注) 商品の買付けは、受託者の名で商品を購入するため、その未払い額は買掛金として処理される。

③商品を受け取ったとき

(1) 委託者が買い付けた商品を受け取ったとき

買付けを委託した商品が到着したときは、通常の仕入れと同様に仕入勘定の借方と委託買付勘定の貸方に記入する。その際、通常は受託者から商品明細として買付計算書が送られてくるが、買付計算書だけが送られ商品が未着のときは、仕入勘定ではなく未着品勘定で処理する。

* 通常の仕入取引と同様に商品代金の未払い分を「買掛金」で処理する方法もある。

(2) 受託者が買い付けた商品を発送したとき

買い付けた商品は後日、委託者へ送られるがその際、商品明細として買付計算書を作成し、委託者へ送られる。買付計算書には、商品の購入代金のほかに事前に受け取っている手付金、買い付けた商品に関して立替払いした引取費用や保管料、発送費用、買付けに関する受取手数料（受託買付手数料）などが記載される。

■仕訳例

東京商店は次のような買付計算書を作成し、商品とともに福岡商店に発送し、福岡商店はこれを受け取った。なお、東京商店は商品の発送にあたり発送運賃10,000円を現金で立て替えて支払った。

買付計算書		(単位：円)
買付代金		150,000
諸 掛		
発送運賃	10,000	
手数料	30,000	40,000
計		190,000
手 付 金		50,000
残 金		140,000

(1) 委託者側

(仕 入) 190,000 (委託買付) 190,000

* 委託買付勘定を使用しないときは、貸方は「前払金」50,000円、残金140,000円は「買掛金勘定」で処理する。

委託買付	
手付金 50,000	
	商品代金 190,000

(2) 受託者側

(受託買付) 40,000 (受取手数料) 30,000

(現金) 10,000

* 受託買付勘定を使用しないときは、受取手数料の未収分は「未収金」で、発送費は「立替金」で処理する。

受託買付	
商 品 150,000	手付金 50,000
手数料 30,000	
運 賃 10,000	

④残金を支払ったとき

(1) 委託者が残金を支払ったとき

委託買付に関する商品代金の未払い額は、受託者に対する債務として委託買付勘定の貸方残高として処理されている。これを支払ったときは委託買付勘定の借方に記入する。

(2) 受託者が残金を受け取ったとき

受託買付では、買い付けた商品代金や立替払いしている引取費用、保管料、発送費用は、委託者に対する債権・債務として受託買付勘定で処理される。これら商品代金等の残金を受け取ったときは、受託買付勘定の貸方に記入する。

■仕訳例

福岡商店は東京商店に買付けを委託した商品の残金140,000円を同店宛の約束手形を振り出して支払った。東京商店はこれを受け取った。

(1) 委託者側

(委 託 買 付) 140,000 (支 払 手 形) 140,000

* 委託買付勘定を使用しないときは、「買掛金」で処理する。

委 託 買 付	
手 付 金 50,000	商品代金 190,000
残 金 140,000	

(2) 受託者側

(受 取 手 形) 140,000 (受 託 買 付) 140,000

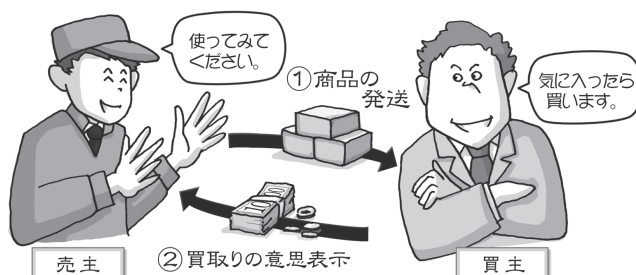
* 受託買付勘定を使用しないときは、受取手数料30,000円は「未収金」で、残額110,000円は「立替金」で処理する。

受 託 買 付	
商 品 150,000	手 付 金 50,000
手 数 料 30,000	残 金 140,000
運 賃 10,000	

6 試用販売とは

試用販売とは、取引先に商品を発送して一定の期間試用してもらい、取引先が買取りの意思表示をしたときに、はじめて売買契約が成立する販売形態をいう。

試用販売の売上収益は、商品を発送したときではなく、取引先が買取りの意思表示をしたときに計上する。また、試用販売の会計処理方法には、手許商品区分法と対照勘定法がある。



1. 手許商品区分法による会計処理

手許商品区分法とは、手許にある商品の原価と手許にない試用中の商品の原価を区分して処理する方法である。

(1) 商品を発送したとき

試用してもらうために商品を発送したときは、売上収益は計上しないが、手許にある商品と区別するために、その商品の原価を仕入勘定から試用品勘定（資産）に振り替える。

仕訳例 14

試用品として商品 1,200 円（原価 800 円）を発送した。

(試 用 品)	800	(仕 入)	800
---------	-----	-------	-----

(2) 返品されたとき

試用品が返品されたときは、発送した商品が再び手許に戻ってくるため、その商品の原価を試用品勘定から仕入勘定へ振り戻す。

仕訳例 15

試用品のうち 300 円（原価 200 円）が返品された。

(仕 入)	200	(試 用 品)	200
-------	-----	---------	-----

(3) 買取りの意思表示があったとき

取引先が買取りの意思表示をしたときは、試用売上勘定（収益）により売上収益を計上する。その際、仕入勘定で売上原価を計算するために、その原価を試用品勘定から仕入勘定に振り替える。なお、売上原価の計算は「販売のつど行う方法」と、期末決算において「一括して行う方法」とがあるので、検定試験では問題文の指示にしたがうこと。

仕訳例 16

試用品のうち600円（原価400円）につき、得意先から買い取る旨の通知を受けた。

なお、これに伴う売上原価を試用品勘定から仕入勘定に振り替える。

(売 掛 金)	600	(試 用 売 上)*	600
(仕 入)	400	(試 用 品)	400

* 「試用売上」は「試用品売上」「売上」で処理することもある。

仕訳例 14 ～ 16 について仕入勘定と試用品勘定を勘定図で示すと次のようになる。

仕 入		試 用 品	
当期仕入	800	800	200
			400
200			
400			

(注) 売上原価を販売のつど試用品勘定から仕入勘定に振り替えている場合、試用販売に関する決算整理仕訳（売上原価の算定）は必要ない（**18**売上原価の算定を参照）。また、決算整理「前」における試用品勘定の残高は期末試用品棚卸高を示している。

基本例題05

□check!

次の取引を手許商品区分法により仕訳しなさい。

- (1) 試用品として商品 1,200 円（原価 600 円）を発送した。
- (2) 試用品のうち一部の商品 200 円（原価 100 円）が返品された。
- (3) 試用品のうち残りの商品 1,000 円（原価 500 円）につき、得意先から買い取る旨の通知を受けた。なお、これに伴う売上原価を試用品勘定から仕入勘定に振り替える。

2. 対照勘定法による会計処理

対照勘定法とは、借方科目と貸方科目を一对とする勘定（対照勘定という）を用いて試用品の売価を記録しておく方法である。なお、この記録は備忘記録である。

(1) 商品を発送したとき

商品を発送したときに、借方科目は試用販売売掛金、貸方科目は試用仮売上という一对の対照勘定により試用品の売価を記録しておく。

仕訳例 17

試用品として商品1,200円（原価800円）を発送した。

(試用販売売掛金)* 1,200 (試用仮売上)* 1,200

* このほかに「試用販売契約」と「試用販売」という組み合わせの対照勘定もある。

(2) 返品があったとき

試用品の返品を受けたときは、対照勘定を消滅させるために発送時の仕訳を貸借逆にした仕訳（逆仕訳）を行い、対照勘定の残高が試用品の売価を示すように処理する。

仕訳例 18

試用品のうち300円（原価200円）が返品された。

(試用仮売上) 300 (試用販売売掛金) 300

(3) 買取りの意思表示があったとき

得意先が買取りの意思表示をしたときは、売上収益を計上するとともに、同額の対照勘定を消滅させるための逆仕訳を行う。

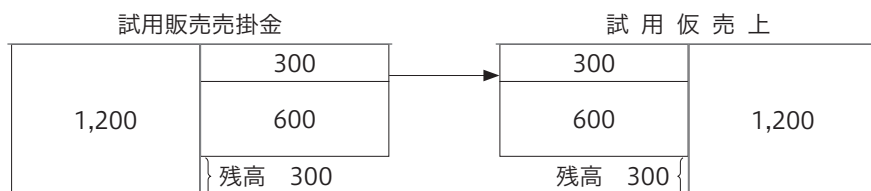
仕訳例 19

試用品のうち600円（原価400円）につき、得意先から買い取る旨の通知を受けた。

(売掛金) 600 (試用売上) 600

(試用仮売上) 600 (試用販売売掛金) 600

仕訳例17～19について対照勘定を勘定図で示すと次のようになる。



(注) 対照勘定の残高(300円)は、試用品の売価を表している。仮にここで決算をむかえたときは、次のような決算整理仕訳(売上原価の算定)により原価(200円)が次期へ繰り越される(8売上原価の算定を参照)。

(繰越商品) 200 (仕入) 200

7 割賦販売とは

割賦販売とは、商品を引き渡したあと、月賦・年賦などの方法により、売上代金を数回に分割して定期的に回収する販売形態をいう。

売上収益の計上基準は次のようになる。

	売上収益の計上基準	売上収益の計上時点	当期の売上収益計上高
原則	販売基準	商品などを引き渡した日	当期の販売高
例外	回収基準	割賦金の入金（回収）の日	当期の回収高

（注）収益の計上基準には上記のほかに例外として回収期限到来基準があるが1級の範囲となる。

1. 販売基準の場合（原則）

販売基準とは、商品を引き渡したときに売上収益を計上する基準であり、その会計処理は一般商品売買と同じである。

（1）商品を引き渡したとき

割賦販売により商品を引き渡したときは、一般商品売買と区別するため、割賦売掛金勘定（資産）と割賦売上勘定（収益）で処理する。

仕訳例 20

商品500円（原価300円）を5回の分割払いで販売した。

（割 賦 売 掛 金）* 500 （割 賦 売 上）* 500

* 「割賦売掛金」を「売掛金」,「割賦売上」を「売上」で処理することもある。

（2）入金があったとき

割賦金を回収したときは、通常の掛け代金の回収と同様に割賦売掛金勘定を減少させる。

仕訳例 21

割賦代金500円のうち、第1回目の入金分100円を現金で回収した。

（現 金） 100 （割 賦 売 掛 金） 100

（注）販売基準では一般商品売買と同様に商品を引き渡した時点で売上収益を全額計上するため、特別な決算整理を要しない。

2. 回収基準の場合（例外）

回収基準とは、売上代金の入金があったときに売上収益を計上する基準であり、商品を引き渡したときに売上収益を計上しない。回収基準による場合、その会計処理には、対照勘定法と未実現利益整理法の2つがあるが、ここでは対照勘定法について説明する。

対照勘定法とは、貸借で一對となっている勘定（対照勘定）を用いて、割賦販売した商品の売価を備忘記録しておく方法である。

（1）商品を引き渡したとき

割賦販売により商品を引き渡したときは、売上収益が計上できないため、割賦販売した商品の売価を対照勘定を使って備忘記録しておく。

仕訳例 19

商品500円（原価300円）を5回の分割払いで販売した。

（割賦販売売掛金）*	500	（割 賦 仮 売 上）*	500
------------	-----	--------------	-----

* このほかに「割賦販売契約」と「割賦販売」という組み合わせの対照勘定もある。

（2）入金があったとき

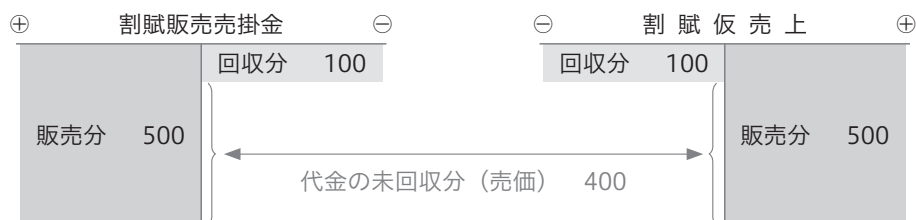
割賦金を回収したときは、割賦売上勘定（収益）により回収分だけの売上収益を計上するとともに、同額の対照勘定を消滅させるための逆仕訳を行う。

仕訳例 20

割賦代金500円のうち、第1回目の入金分100円を現金で回収した。

（現 金）	100	（割 賦 売 上）	100
（割 賦 仮 売 上）	100	（割賦販売売掛金）	100

[仕訳例19, 20] について、対照勘定の記入図を示すと次のとおりである。



基本例題06

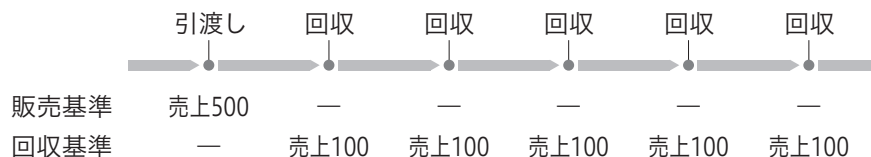
□check!

次の一連の取引を(a)販売基準と、(b)回収基準（対照勘定法）により仕訳しなさい。

- (1) 新宿商店は中野商店に商品2,000円（原価1,400円）を5回分割払いで販売した。
- (2) 第1回目の割賦代金400円を現金で受け取った。

ここが
POINT

販売基準と回収基準について、売上計上時期の違いを示すと次のようになる。



8 売上原価の算定：試用販売

ここでは、試用販売を前題に、必要な決算整理仕訳（売上原価の算定）の内容を学習する。

一般販売とともに試用販売を行っている場合、「一般売上」と「試用売上」に対する売上原価を明らかにするため、決算整理仕訳が必要となる。この点、一般売上は「手許商品」の販売分、試用売上は「試用品」の販売分であるから、その売上原価は「当期商品仕入高」に対して、期首・期末の「手許商品棚卸高」、および期首・期末の「試用品棚卸高」を調整すれば求めることができる。

$$\begin{array}{l}
 \text{売上原価} = \text{期首商品棚卸高} + \text{当期商品仕入高} - \text{期末商品棚卸高} \\
 \text{(一般 + 試用)} \quad \begin{array}{l} \cdot \text{手許商品} \\ \cdot \text{試用品} \end{array} \quad \begin{array}{l} = \text{仕入勘定} \\ \text{(一般と試用に共通)} \end{array} \quad \begin{array}{l} \cdot \text{手許商品} \\ \cdot \text{試用品} \end{array}
 \end{array}$$

1. 手許商品区分法（その都度法）の場合

期中において、試用品の原価は「仕入」勘定から「試用品」勘定に振り替えられ、かつ、販売時に試用品の売上原価を「試用品」勘定から「仕入」勘定に振り戻しているため、試用品売上に係る売上原価は決算整理前における「仕入」勘定に計上されている。したがって、一般売上に係る期首・期末の「手許商品棚卸高」を「仕入」勘定に調整し、「一般売上 + 試用売上」に対する売上原価を算定する。

(仕入)	××	(繰越商品)	××
	期首手許商品		期首手許商品
(繰越商品)	××	(仕入)	××
	期末手許商品		期末手許商品

なお、手許商品区分法（その都度法）で処理される「未着品販売」「委託販売」の場合も同様に求めることができる。

設例 2-1

以下の資料をもとに決算整理前残高試算表（一部）を作成しなさい。なお、試用販売は当期より始めたものであり、手許商品区分法（その都度法）により処理する。

【資料 1】 期首試算表

期首試算表	
繰越商品	4,000

【資料 2】 期中取引

- (1) 商品 50,000 円を掛けて仕入れた。
- (2) 商品（原価 40,000 円、売価 45,000 円）を掛けにより販売した（一般販売）。
- (3) 試用販売のため商品（原価 12,000 円、売価 15,000 円）を顧客に試送した。
- (4) 顧客に試送中の商品（原価 8,000 円、売価 10,000 円）について買取りの意思表示を受けた。なお、売上原価は販売のつど仕入勘定に振り替える。

〈解答・解説〉

決算整理前残高試算表（一部）			
繰越商品	4,000	一般売上	45,000
試用商品	4,000	試用売上	10,000
仕入	46,000		

1. 期中取引の仕訳

(1) 商品の仕入れ

(仕入)	50,000	(買掛金)	50,000
------	--------	-------	--------

(2) 一般売上

(売掛金)	45,000	(一般売上)	45,000
-------	--------	--------	--------

(3) 商品の試送

(試用品)	12,000	(仕入)	12,000
-------	--------	------	--------

(4) 試用売上

(売掛金)	10,000	(試用売上)	10,000
(仕入)	8,000	(試用品)	8,000

2. 勘定記入

仕 入		一 般 売 上	
(1)仕入 50,000	(3)試送 12,000		(2)販売 45,000
	一般仕入 + 試用品売上原価		
(4)販売 8,000			
試 用 品		試 用 売 上	
(3)試送 12,000	(4)販売 8,000		(4)販売 10,000
	期末試用品		

設例 2-2

以下の資料をもとに決算整理後残高試算表（一部）を作成しなさい。なお、試用販売は当期より始めたものであり、手許商品区分法（その都度法）により処理している。

【資料1】 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表(一部)			
繰 越 商 品	4,000	一 般 売 上	45,000
試 用 品	4,000	試 用 売 上	10,000
仕 入	46,000		

【資料2】 決算整理事項

期末商品棚卸高は以下のとおりである。売上原価を仕入勘定で算定する。

- (1) 手許商品：2,000 円
- (2) 試用品：4,000 円

〈解答・解説〉

決算整理後残高試算表(一部)			
繰 越 商 品	2,000	一 般 売 上	45,000
試 用 品	4,000	試 用 売 上	10,000
仕 入	48,000		

1. 決算整理仕訳：売上原価の算定

期首手許商品棚卸高を「繰越商品」勘定から「仕入」勘定に振り替え、期末手許商品棚卸高を「仕入」勘定から「繰越商品」勘定に振り替える。

(仕 入)	4,000	(繰 越 商 品)	4,000
	期首手許商品		期首手許商品
(繰 越 商 品)	2,000	(仕 入)	2,000
	期末手許商品		期末手許商品

2. 勘定記入

仕 入		一 般 売 上	
(1)仕入 50,000	(3)試送 12,000		(2)販売 45,000
	期末手許 2,000		
	一般 + 試用 売上原価 48,000		
(4)販売 8,000			
期首手許 4,000			

試 用 品		試 用 売 上	
(3)試送 12,000	(4)販売 8,000		(4)販売 10,000

2. 対照勘定法の場合

対照勘定法では、試用品の売価を対照勘定で備忘記録するのみで、試用品の原価は「仕入」勘定から分離されていない。したがって、手許商品とともに試用品について、その期首・期末の棚卸高を「仕入」勘定に調整し、「一般売上+試用売上」に対する売上原価を算定する。

なお、期末試用品棚卸高は期末対照勘定の残高に原価率（売価に含まれる原価の割合）を乗じることにより求めることができる。

(仕 入)	× ×	(繰 越 商 品)	× ×
	期首手許商品 + 期首試用品		期首手許商品 + 期首試用品
(繰 越 商 品)	× ×	(仕 入)	× ×
	期末手許商品 + 期末試用品		期末手許商品 + 期末試用品

また、対照勘定法で処理される「回収基準による割賦販売」の場合も同様に求めることができる。

設例 2-3

以下の資料をもとに決算整理前残高試算表（一部）を作成しなさい。なお、試用販売は当期より始めたものであり、借方科目を「試用販売売掛金」、貸方科目を「試用仮売上」とする対照勘定法により処理する。

【資料 1】期首試算表

期首試算表	
繰越商品	4,000

【資料 2】期中取引

- (1) 商品 50,000 円を掛けて仕入れた。
- (2) 商品（原価 40,000 円，売価 45,000 円）を掛けにより販売した（一般販売）。
- (3) 試用販売のため商品（原価 12,000 円，売価 15,000 円）を顧客に試送した。
- (4) 顧客に試送中の商品（原価 8,000 円，売価 10,000 円）について買取りの意思表示を受けた。

〈解答・解説〉

決算整理前残高試算表（一部）			
繰越商品	4,000	一般売上	45,000
仕入	50,000	試用売上	10,000
試用販売売掛金	5,000	試用仮売上	5,000

1. 期中取引の仕訳

- (1) 商品の仕入れ

(仕入)	50,000	(買掛金)	50,000
------	--------	-------	--------

- (2) 一般売上

(売掛金)	45,000	(一般売上)	45,000
-------	--------	--------	--------

- (3) 商品の試送

(試用販売売掛金)	15,000	(試用仮売上)	15,000
-----------	--------	---------	--------

- (4) 試用売上

(売掛金)	10,000	(試用売上)	10,000
(試用仮売上)	10,000	(試用販売売掛金)	10,000

2. 勘定記入

仕 入		一 般 売 上	
(1)仕入 50,000	} 当期商品 仕入高		(2)販売 45,000
試用販売売掛金		試 用 売 上	
(3)試送 15,000	(4)販売 10,000		(4)販売 10,000
	} 期末試用品 (売価)		
試 用 仮 売 上			
(4)販売 10,000	(3)試送 15,000		
期末試用品 (売価) }			

設例 2-4

以下の資料をもとに決算整理後残高試算表（一部）を作成しなさい。なお，試用販売は当期より始めたものであり，対照勘定法により処理している。

【資料1】決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表(一部)			
繰 越 商 品	4,000	一 般 売 上	45,000
仕 入	50,000	試 用 売 上	10,000
試用販売売掛金	5,000	試 用 仮 売 上	5,000

【資料2】決算整理事項

期末商品棚卸高は以下のとおりである。売上原価を仕入勘定で算定する。なお，期末試用品は「繰越商品」勘定で次期に繰り越す。

- (1) 手許商品：2,000 円
- (2) 試用品：4,000 円

〈解答・解説〉

決算整理後残高試算表(一部)			
繰 越 商 品	6,000	一 般 売 上	45,000
仕 入	48,000	試 用 売 上	10,000
試用販売売掛金	5,000	試 用 仮 売 上	5,000

1. 決算整理仕訳：売上原価の算定

期首手許商品および期首試用品棚卸高を「繰越商品」勘定から「仕入」勘定に振り替え、期末手許商品および期末試用品棚卸高を「仕入」勘定から「繰越商品」勘定に振り替える。

なお、試用販売は当期より始めたものであるため、期首試用品棚卸高はゼロである。

(仕入)	4,000	(繰越商品)	4,000
	期首手許商品 + 期首試用品		期首手許商品 + 期首試用品
(繰越商品)	6,000	(仕入)	6,000
	期末手許商品 + 期末試用品		期末手許商品 + 期末試用品

* 期末における対照勘定の残高5,000円は期末試用品売価を示しているため、これに試用品の原価率0.8(売価に含まれる原価の割合：12,000円÷15,000円)を乗じることにより期末試用品棚卸高4,000円(5,000円×0.8)を求めることができる。

2. 勘定記入

仕入		一般売上	
(1)仕入 50,000	期末 6,000		(2)販売 45,000
期首 4,000	一般 + 試用 売上原価 48,000		
試用販売売掛金		試用売上	
(3)試送 15,000	(4)販売 10,000		(4)販売 10,000
試用仮売上			
(4)販売 10,000	(3)試送 15,000		

基本例題

日商簿記²級

商	業	
---	---	--

簿	記	
---	---	--

--	--	--

解答・解説

基本例題01

精 算 表

(単位：円)

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	4,500		3,000	4,500			2,660	
				340				
売上		200,000				200,000		
仕入	178,500		4,500	3,000	180,000			
棚卸減耗損			200		200			
商品評価損			140		140			

解説

① (仕入)	4,500	(繰越商品)	4,500
② (繰越商品)	3,000	(仕入)	3,000
③ (棚卸減耗損)	200	(繰越商品)	340
④ (商品評価損)	140		

(注) 棚卸減耗損と商品評価損を計上する仕訳は、このようにまとめて繰越商品勘定から減らすように処理してもよい。ただし、①や②の仕訳と加減算はしないこと。

②期末商品帳簿棚卸高		
@100円	④商品評価損	③棚卸減耗損
@95円	※「商品」の貸借対照表価額	
	28個	30個
	② @100円×30個=3,000円 ③ (30個-28個)×@100円=200円 ④ (@100円-@95円)×28個=140円 ※ @95円×28個=2,660円 または ②-③-④=2,660円	

《参考》「棚卸減耗損および商品評価損を売上原価に算入する」場合には、次のようになる。

精 算 表

(単位：円)

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	4,500		3,000	4,500			2,660	
				340				
売上		200,000				200,000		
仕入	178,500		4,500	3,000	180,340			
			340					
棚卸減耗損			200	200				
商品評価損			140	140				

① (仕入)	4,500	(繰越商品)	4,500
② (繰越商品)	3,000	(仕入)	3,000
③ (棚卸減耗損)	200	(繰越商品)	340
④ (商品評価損)	140		
⑤ (仕入)	340	(棚卸減耗損)	200
		(商品評価損)	140

精算表上では、仕入の行から費用となる金額を売上原価とよんでいる。算入しない場合の精算表と算入する場合の精算表で費用となっている金額はどちらも180,340円だが、棚卸減耗損200円や商品評価損140円がどの行から費用となっているかが違う。

基本例題02

(1) (現金)	500,000	(前受金)	500,000
(2) (前受金)	50,000	(売上)*	50,000

* 1巻の予約販売価格500円×100セット=50,000円

基本例題03

(1) (未着品)	3,000	(買掛金)	3,000
(2) (仕入)	2,050	(未着品)	2,000
		(現金)	50
(3) (売掛金)	1,500	(未着品売上)	1,500
(仕入)	1,000	(未着品)	1,000

基本例題04

－横浜商店－

(1) (積 送 品)	3,090	(仕 入)	3,000
		(現 金)	90
(2) 仕訳なし			
(3) (委 託 販 売)	3,600	(積 送 品 売 上)	4,500
(積 送 諸 掛)	900		
(仕 入)	3,090	(積 送 品)	3,090
(4) (現 金)	3,600	(委 託 販 売)	3,600

－神戸商店－

(1) (受 託 販 売)	30	(現 金)	30
(2) (売 掛 金)	4,500	(受 託 販 売)	4,500
(受 託 販 売)	50	(現 金)	50
(3) (受 託 販 売)	820	(保 管 料)	20
		(受 取 手 数 料)	800
(4) (受 託 販 売)	3,600	(当 座 預 金)	3,600

基本例題05

(1) (試 用 品)	600	(仕 入)	600
(2) (仕 入)	100	(試 用 品)	100
(3) (売 掛 金)	1,000	(試 用 売 上)	1,000
(仕 入)	500	(試 用 品)	500

基本例題06

(a)販売基準

(1) (割 賦 売 掛 金)	2,000	(割 賦 売 上)	2,000
(2) (現 金)	400	(割 賦 売 掛 金)	400

(b)回収基準

(1) (割 賦 販 売 契 約)	2,000	(割 賦 仮 売 上)	2,000
(2) (現 金)	400	(割 賦 売 上)	400
(割 賦 仮 売 上)	400	(割 賦 販 売 契 約)	400

💡 よくわかる 簿記シリーズ

合格 トレーニング

TRAINING

日商 簿記 2 級 商業簿記

TAC簿記検定講座

Ver. 8.0



TAC出版



.....

問題編

.....

合格トレーニング

日商簿記 2 級 商業簿記

理解度チェック

☐ ☐ ☐

問題1-1 ★★★

次の取引について仕訳しなさい。なお、商品売買の処理は三分法による。

- (1) 商品420,000円を仕入れ、代金は掛けとした。その際、引取費用3,000円を現金で支払った。
- (2) 上記、仕入商品のうち25,000円を返品した。
- (3) 上記の買掛金を現金で支払った。その際、4,000円の割引きを受けた。
- (4) 商品（原価180,000円、売価250,000円）を販売し、代金は掛けとした。
- (5) 上記、売上商品について、5,000円値引きした。
- (6) 上記の売掛金を現金で回収した。その際3,000円を割り引いた。

▼ 解答欄

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				
(6)				

解答(3)ページ

問題1-2 ★★★

☐ ☐ ☐

次の資料にもとづいて各設問ごとに決算整理仕訳を行い，与えられた勘定に転記しなさい。商品売買の処理は三分法による。また，転記の際，勘定には相手科目と金額のみを記入しなさい（締め切りは不要）。なお，棚卸減耗損と商品評価損は売上原価に算入しない。

〔資 料〕

- (1) 帳簿棚卸数量 20個 実地棚卸数量 18個
 (2) 原 価 @5,000円 時価（正味売却価額） @4,700円
 (3) その他の資料

繰 越 商 品		仕 入	
前期繰越	120,000	現 金	220,000
		買 掛 金	630,000
		諸 口	110,000

〔設問1〕 売上原価の計算を仕入勘定で行いなさい。

〔設問2〕 売上原価の計算を売上原価勘定で行いなさい。

▼ 解答欄

〔設問１〕 仕入勘定で行う場合

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額

繰 越 商 品		仕 入	
前期繰越	120,000	現 金	220,000
		買 掛 金	630,000
		諸 口	110,000

〔設問２〕 売上原価勘定で行う場合

借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額

繰 越 商 品		仕 入	
前期繰越	120,000	現 金	220,000
		買 掛 金	630,000
		諸 口	110,000

売 上 原 価	

問題1-3 ★★★

☐ ☐ ☐

次の期末修正事項にもとづいて、(1)精算表の記入、および(2)与えられた勘定の記入を完成させなさい。なお、会計期間は1年（決算日：3月末）である。

〔期末修正事項〕

商品の期末棚卸高は次のとおりである。なお、棚卸減耗損と商品評価損は売上原価に算入しない。売上原価の計算は「仕入」の行で行うこと。

- (1) 帳簿棚卸数量 500個 実地棚卸数量 480個
 (2) 原 価 @500円 正味売却価額 @450円

▼ 解答欄

(1) 精 算 表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	210,000							
売上		1,850,000						
仕入	950,000							
棚卸減耗損								
商品評価損								

(2) 繰 越 商 品

月	日	摘要	借方	月	日	摘要	貸方
4	1	前期繰越	210,000	3	31	仕入	
3	31	仕入		〃	〃	棚卸減耗損	
				〃	〃	商品評価損	
				〃	〃	次期繰越	

仕 入

月	日	摘要	借方	月	日	摘要	貸方
×	×	諸口	950,000	3	31	繰越商品	
3	31	繰越商品		〃	〃	損益	

問題1-4 ★★★

☐ ☐ ☐

次の期末修正事項にもとづいて、(1)精算表の記入、および(2)与えられた勘定の記入を完成させなさい。なお、会計期間は1年（決算日：3月末）である。

〔期末修正事項〕

商品の期末棚卸高は次のとおりである。なお、売上原価の計算は「仕入」の行で行う。また、商品評価損は売上原価に算入し、棚卸減耗損は売上原価に算入しない。

- (1) 帳簿棚卸高 数量 500個 原価 @500円
- (2) 実地棚卸高
- ①良品 数量 430個 正味売却価額 @450円
- ②品質低下品 数量 50個 正味売却価額 @300円

▼ 解答欄

(1) 精 算 表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	210,000							
売上		1,850,000						
仕入	950,000							
棚卸減耗損								
商品評価損								

(2) 繰 越 商 品

月	日	摘要	借方	月	日	摘要	貸方
4	1	前期繰越	210,000	3	31		
3	31			〃	〃		
				〃	〃		
				〃	〃		

仕 入

月	日	摘要	借方	月	日	摘要	貸方
×	×	諸口	950,000	3	31		
3	31			〃	〃		
〃	〃						

問題1-5 ★★☆☆

☐	☐	☐
--------------------------	--------------------------	--------------------------

次の決算整理事項にもとづいて、精算表を完成しなさい。

〔決算整理事項〕

- 1 売掛金の期末残高に対して実績法により2%の貸倒れを見積る。なお、会計処理は差額補充法により設定する。
- 2 建物について減価償却費540円を計上する。
- 3 商品の期末棚卸高は次のとおりである。
 - (1) 帳簿数量 20個 実地数量 16個
 - (2) 原価 @50円 正味売却価額 @40円売上原価の計算は「仕入」の行で行うこと。また、商品評価損は売上原価に算入し、棚卸減耗損は売上原価に算入しないこととする。
- 4 有価証券評価損を400円計上する。
- 5 給料の未払いが60円ある。

▼ 解答欄

精 算 表

勘 定 科 目	残高試算表		修 正 記 入		損益計算書		貸借対照表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	600							
売 掛 金	2,000							
売買目的有価証券	700							
繰 越 商 品	600							
建 物	3,000							
買 掛 金		2,000						
貸 倒 引 当 金		20						
減価償却累計額		270						
資 本 金		1,000						1,000
利 益 準 備 金		210						210
繰越利益剰余金		300						300
売 上		6,000						
受 取 利 息		400						
仕 入	3,000							
給 料	300							
	10,200	10,200						
貸倒引当金()								
()								
()								
()								
()								
未 払 給 料								
当期純()								

問題1-6 ★★★

次の資料にもとづいて、以下の各勘定に記入しなさい。なお、各取引は番号順に発生したものとし、払出単価の計算は先入先出法による。売上原価の計算は仕入勘定で行い、商品評価損は売上原価に算入し、棚卸減耗損は売上原価に算入しない。

〔資 料〕

- 1 前期繰越 50個 @2,000円
- 2 仕 入 150個 @2,400円
- 3 売 上 100個 @4,500円 (売 価)
- 4 仕 入 100個 @2,000円
- 5 売 上 140個 @4,600円 (売 価)
- 6 期末商品棚卸高

帳簿数量：各自計算	原	価：各自計算
実地数量 55個	正味売却価額	@1,900円

▼ 解答欄

繰 越 商 品		棚卸減耗損	
4/1 前期繰越 ()	3/31 () ()	3/31 () ()	3/31 () ()
3/31 () ()	〃 () ()		
	〃 () ()		
	〃 () ()		
	()		
4/1 前期繰越 ()	()		

仕 入		売 上	
総仕入高 ()	3/31 () ()	3/31 () ()	総売上高 ()
3/31 () ()	〃 () ()		
〃 () ()			
()	()		

損 益	
3/31 () ()	3/31 () ()
〃 () ()	

理解度チェック

☐ ☐ ☐

問題2-1 ★★★

次の一連の取引について、(1)仕訳し、(2)与えられた勘定に取引番号と金額を転記し、(3)残高試算表(一部)を完成しなさい。

- ① 東京出版は、美術全集（全5巻、1巻の販売価格8,000円）の代金前納による予約販売を企画したところ、100セットの申し込みがあり、予約代金として4,000,000円を現金で受け取った。なお、美術全集は完成した巻から順次、予約者に配本する予定である。
- ② 美術全集第1巻が完成したので予約者に発送した。
- ③ 美術全集第2巻が完成したので予約者に発送した。

▼ 解答欄

(1)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
①				
②				
③				

(2)

前 受 金	売 上

(3)

残 高 試 算 表			
現 金 ()	前 受 金 ()	売 上 ()	

解答<10>ページ

問題2-2 ★★★

--	--	--

次の取引について仕訳しなさい。

- (1) 中央出版社は、美術全集（全10巻、1巻の予約販売価格48,000円）の代金前納による予約販売を企画したところ、100セットの申し込みがあり、予約代金総額48,000,000円を現金で受け取った。なお、美術全集は完成した巻から順次、予約者に配本する予定である。
- (2) 関越出版株式会社は、同社出版の文学全集（全10巻、予約販売価格は1巻あたり5,000円）の第1巻が完成したので、予約金納入者宛に発送した。なお、予約代金は900名の顧客から45,000,000円をすでに受け取っている。

▼ 解答欄

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				

解答(10)ページ

問題2-3 ★★★

☐ ☐ ☐

次の一連の取引について、(1)仕訳し、(2)与えられた勘定に取引番号と金額を転記し、(3)残高試算表(一部)を完成しなさい。なお、未着品販売は手許商品区分法により処理すること。

- ① 商品500,000円について船荷証券を受け取り、代金は掛けとした。
- ② 上記、船荷証券のうち100,000円について商品が到着したので、商品を引き取った。
- ③ 上記、船荷証券のうち200,000円を280,000円で転売し、代金は掛けとした。なお、これにともなう売上原価は仕入勘定へ振り替える。

▼ 解答欄

(1)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
①				
②				
③				

(2)

未 着 品	未 着 品 売 上
仕 入	

(3)

残 高 試 算 表			
売 掛 金 (	)	買 掛 金 (	)
未 着 品 (	)	未 着 品 売 上 (	)
仕 入 (	)		

解答<11>ページ

問題2-4 ★★★

☐ ☐ ☐

次の一連の取引について、(1)仕訳し、(2)与えられた勘定に取引番号と金額を転記し、(3)残高試算表(一部)を完成しなさい。なお、委託販売は手許商品区分法により処理すること。

- ① 商品500個 (@1,500円) を掛けて仕入れた。
- ② 上記商品のうち100個 (売価: @2,000円) を販売し、代金を掛けとした。
- ③ 上記商品のうち200個 (売価: @2,500円) を委託販売のため大阪商店に発送した。
- ④ 大阪商店より商品150個が販売された旨の仕切精算書を受け取った。なお、受託者の販売高を売上として計上し、販売手数料37,500円は積送諸掛として計上する。また、これにともなう売上原価は仕入勘定へ振り替える。

▼ 解答欄

(1)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
①				
②				
③				
④				

(2)

仕 入	売 上
積 送 品	積 送 品 売 上

(3)

残 高 試 算 表

売 掛 金 ()	買 掛 金 ()
委 託 販 売 ()	売 上 ()
積 送 品 ()	積 送 品 売 上 ()
仕 入 ()	
積 送 諸 掛 ()	

問題2-5 ★★★

☐ ☐ ☐

次の取引について仕訳しなさい。

- (1) 沖縄商店に販売を委託するため、商品80個（原価@1,500円，売価@1,800円）を発送し，発送運賃5,000円を現金で支払った。なお，この諸掛りは積送品原価に算入する。
- (2) 沖縄商店より次の売上計算書（仕切精算書）が送付されてきた。

売上計算書		(単位：円)
1 売上高		144,000
2 諸掛り		
手数料	7,200	
運賃	2,000	
保管料	<u>1,000</u>	<u>10,200</u>
差引：手取金		<u>133,800</u>

なお，受託者の販売額をもって売上げに計上し，売上原価はそのつど処理するものとする。

▼ 解答欄

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)				
(2)				

問題2-6 ★★★

☐ ☐ ☐

次の一連の取引について(1)仕訳するとともに、(2)受託販売勘定に転記しなさい。なお、転記の際、勘定には取引番号と金額のみ記入すること。

- ① 東京商店は大阪商店から商品（原価500,000円、売価800,000円）の販売を委託され、引き取りにあたり、引取運賃5,000円を現金で支払った。
- ② 東京商店は、①の商品を販売し、代金800,000円のうち200,000円は現金で受け取り、残額は掛けとした。
- ③ 東京商店は次の売上計算書を作成し、大阪商店に送付した。

売上計算書			(単位：円)
売 上 高			800,000
諸 掛 り			
引 取 運 賃	5,000		
保 管 料	10,000		
受 取 手 数 料	<u>80,000</u>	<u>95,000</u>	
手 取 金		<u>705,000</u>	

- ④ 東京商店は大阪商店に対して、手取金705,000円を小切手を振り出して送金した。

▼ 解答欄

(1)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
①				
②				
③				
④				

(2)

受 託 販 売	

問題2-7 ★★★

☐ ☐ ☐

次の一連の取引について、(1)仕訳し、(2)与えられた勘定に取引番号と金額を転記し、(3)残高試算表(一部)を完成しなさい。なお、試用販売は手許商品区分法により処理すること。

- ① 商品300個 (@2,000円) を掛けて仕入れた。
- ② 上記商品のうち100個を(売価:@2,800円)で販売し、代金を掛けとした。
- ③ 上記商品のうち150個(売価:@3,000円)を試用販売のため発送した。
- ④ 顧客より100個の試用品について買い取る旨の連絡を受け、代金は掛けとした。なお、これにともなう売上原価は仕入勘定へ振り替える。
- ⑤ 顧客より30個の試用品が返品された。

▼ 解答欄

(1)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
①				
②				
③				
④				
⑤				

(2)

仕 入	売 上
試 用 品	試 用 品 売 上

(3)

残 高 試 算 表

売 掛 金 ()	買 掛 金 ()
試 用 品 ()	売 上 ()
仕 入 ()	試 用 品 売 上 ()

問題2-8 ★★☆☆

☐ ☐ ☐

次の取引について対照勘定を用いて仕訳しなさい。

- (1) 静岡物産は、三重商事に対し商品3,000,000円（売価3,600,000円）と、多摩商事に対して商品2,800,000円（売価3,000,000円）を試用品として発送した。
- (2) 三重商事より試用品を買い取る旨の通知があった。
- (3) 多摩商事より試用品が返品された。

▼ 解答欄

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				
(3)				

解答(13)ページ

問題2-9 ★★☆☆

☐ ☐ ☐

次の割賦販売の取引について販売基準により仕訳しなさい。

- (1) 東京商店は、商品（原価150,000円，売価200,000円）を5カ月の月賦で販売した。
- (2) 第1回目の月賦金40,000円が当座預金に振り込まれた。

▼ 解答欄

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)				
(2)				

解答(13)ページ

問題2-10 ★★★

☐ ☐ ☐

次の一連の取引について、(1)仕訳し、(2)与えられた勘定に取引番号と金額を転記し、(3)残高試算表(一部)を完成しなさい。なお、割賦販売の売上収益は回収基準により計上し、借方科目を「割賦販売契約」、貸方科目を「割賦仮売上」とする対照勘定を用いて処理すること。

- ① 商品500,000円を掛けで仕入れた。
- ② 上記商品を750,000円で割賦販売（5回の分割払い）した。
- ③ 1回目の割賦代金150,000円を現金で回収した。
- ④ 2回目の割賦代金150,000円を現金で回収した。

▼ 解答欄

(1)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
①				
②				
③				
④				

(2)

仕 入	割 賦 売 上
割 賦 販 売 契 約	割 賦 仮 売 上

(3)

残 高 試 算 表

現 金 ()	買 掛 金 ()
割 賦 販 売 契 約 ()	割 賦 売 上 ()
仕 入 ()	割 賦 仮 売 上 ()

問題2-11 ★★★

☐ ☐ ☐

次の期末修正事項にもとづいて精算表の記入を行いなさい。

- 商品に係る貨物代表証券（原価30,000円，売価45,000円）を得意先に掛けて転売していたが未処理であった。
- 試用販売のため顧客に試送していた商品（原価150,000円，売価218,000円）はすべて買い取りの意思表示を受けていたが未処理であった。なお，代金は後日受け取る予定である。
- 期末手許商品帳簿棚卸高は233,000円，実地棚卸高215,000円である。なお，実地棚卸高の一部の商品に品質低下が発生しているため商品評価損8,500円を計上する。また，売上原価は仕入の行で計算し，棚卸減耗損および商品評価損は売上原価に算入しない。
- 売上債権の期末残高に対し2%の貸倒引当金を見積る。差額補充法により処理すること。

▼ 解答欄

精 算 表

勘定科目	残高試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
売掛金	302,000							
繰越商品	163,000							
未着品	85,000							
試用品	150,000							
貸倒引当金		2,350						
一般売上		1,930,000						
未着品売上		861,000						
試用品売上		734,000						
仕入	2,850,000							
棚卸減耗損								
商品評価損								
貸倒引当金繰入								

.....

解答編

.....

合格トレーニング

日商簿記 2 級 商業簿記

一般商品売買

問題1-1

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	仕入	423,000	買掛金	420,000
			現金	3,000
(2)	買掛金	25,000	仕入	25,000
(3)	買掛金	395,000	現金	391,000
			仕入割引	4,000
(4)	売掛金	250,000	売上	250,000
(5)	売上	5,000	売掛金	5,000
(6)	現金	242,000	売掛金	245,000
	売上割引	3,000		

解答への道

- (1) 当社負担の引取費用は仕入勘定に含めて処理します。
- (2) 仕入返品は仕入取引の取消分として、仕入勘定をマイナスします。
- (3) 買掛金決済の際の割引額は仕入割引勘定（収益）で処理します。
- (4) 売価をもって、売上勘定を仕訳します。
- (5) 売上値引は利益の修正分として、売上勘定をマイナスします。
- (6) 売掛金回収の際の割引額は売上割引勘定（費用）で処理します。

問題1-2

〔設問1〕

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	120,000	繰越商品	120,000
繰越商品	100,000	仕入	100,000
棚卸減耗損	10,000	繰越商品	10,000
商品評価損	5,400	繰越商品	5,400

繰越商品			
前期繰越	120,000	仕入	120,000
仕入	100,000	棚卸減耗損	10,000
		商品評価損	5,400
仕入			
現金	220,000	繰越商品	100,000
買掛金	630,000		
諸口	110,000		
繰越商品	120,000		

〔設問2〕

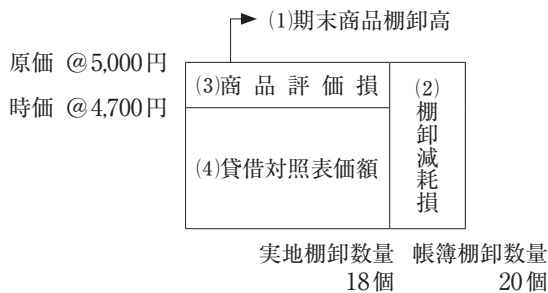
借方科目	金額	貸方科目	金額
売上原価	120,000	繰越商品	120,000
売上原価	960,000	仕入	960,000
繰越商品	100,000	売上原価	100,000
棚卸減耗損	10,000	繰越商品	10,000
商品評価損	5,400	繰越商品	5,400

繰越商品			
前期繰越	120,000	売上原価	120,000
売上原価	100,000	棚卸減耗損	10,000
		商品評価損	5,400
仕入			
現金	220,000	売上原価	960,000
買掛金	630,000		
諸口	110,000		

売上原価			
繰越商品	120,000	繰越商品	100,000
仕入	960,000		

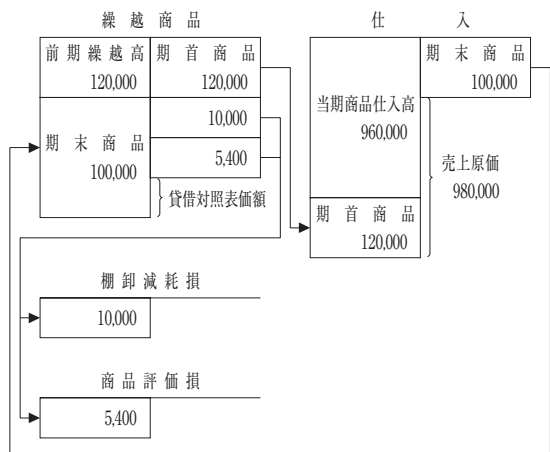
解答への道

原価＞時価（正味売却価額）なので、評価損を計上します。

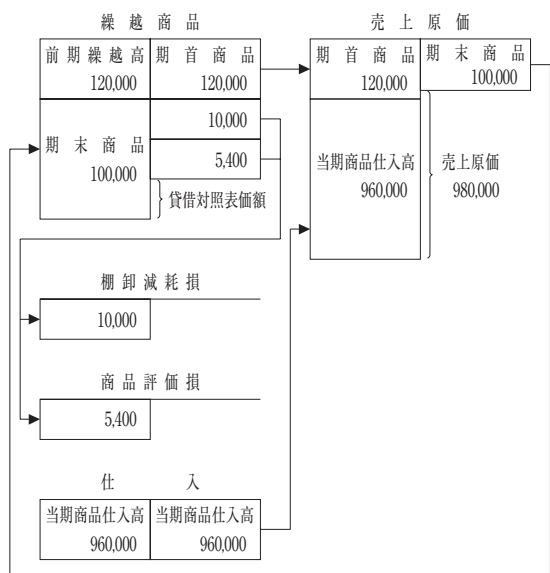


- (1) 期末商品棚卸高
@5,000円×20個＝100,000円
- (2) 棚卸減耗損
@5,000円×(20個－18個)＝10,000円
- (3) 商品評価損
(@5,000円－@4,700円)×18個＝5,400円
- (4) 貸借対照表価額
@5,000円×20個－(10,000円＋5,400円)＝84,600円
または、@4,700円×18個＝84,600円

〔設問1〕の勘定の流れ



〔設問2〕の勘定の流れ



問題1-3

(1) 精 算 表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	210,000		250,000	210,000			216,000	
				10,000				
				24,000				
売上		1,850,000				1,850,000		
仕入	950,000		210,000	250,000	910,000			
棚卸減耗損			10,000		10,000			
商品評価損			24,000		24,000			

(2) 繰越商品

月	日	摘要	借方	月	日	摘要	貸方
4	1	前期繰越	210,000	3	31	仕入	210,000
3	31	仕入	250,000	〃	〃	棚卸減耗損	10,000
				〃	〃	商品評価損	24,000
				〃	〃	次期繰越	216,000
			460,000				460,000

仕入

月	日	摘要	借方	月	日	摘要	貸方
×	×	諸口	950,000	3	31	繰越商品	250,000
3	31	繰越商品	210,000	〃	〃	損益	910,000
			1,160,000				1,160,000

解答への道

売上原価の計算および商品の評価に関する決算整理仕訳

(仕入) 210,000	(繰越商品) 210,000
(繰越商品) 250,000	(仕入) 250,000
(棚卸減耗損) 10,000	(繰越商品) 10,000
(商品評価損) 24,000	(繰越商品) 24,000

▶(1)期末商品帳簿棚卸高

原価@500円
時価@450円

(3)商品評価損	(2)棚卸減耗損
(4)貸借対照表価額	

実地棚卸数量 帳簿棚卸数量
480個 500個

なお、正味売却価額は時価に相当する概念です。

- 期末商品帳簿棚卸高
@ 500円 × 500個 = 250,000円
- 棚卸減耗損
@ 500円 × (500個 - 480個) = 10,000円
- 商品評価損
(@ 500円 - @ 450円) × 480個 = 24,000円
- 貸借対照表価額
@ 500円 × 500個 - (10,000円 + 24,000円)
= 216,000円
または、@ 450円 × 480個 = 216,000円

問題1-4

(1) 精 算 表

勘 定 科 目	試 算 表		修 正 記 入		損益計算書		貸借対照表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
繰 越 商 品	210,000		250,000	210,000			208,500	
				10,000				
				31,500				
売 上		1,850,000				1,850,000		
仕 入	950,000		210,000	250,000	941,500			
			31,500					
棚 卸 減 耗 損			10,000		10,000			
商 品 評 価 損			31,500	31,500				

(2) 繰 越 商 品

月	日	摘 要	借 方	月	日	摘 要	貸 方
4	1	前 期 繰 越	210,000	3	31	仕 入	210,000
3	31	仕 入	250,000	〃	〃	棚 卸 減 耗 損	10,000
				〃	〃	商 品 評 価 損	31,500
				〃	〃	次 期 繰 越	208,500
			460,000				460,000

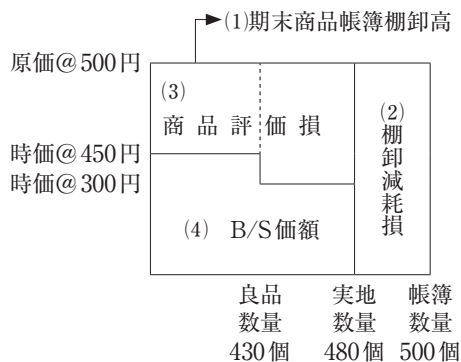
仕 入

月	日	摘 要	借 方	月	日	摘 要	貸 方
×	×	諸 口	950,000	3	31	繰 越 商 品	250,000
3	31	繰 越 商 品	210,000	〃	〃	損 益	941,500
〃	〃	商 品 評 価 損	31,500				
			1,191,500				1,191,500

解答への道

売上原価の計算および商品の評価に関する決算整理仕訳

(仕 入) 210,000	(繰 越 商 品) 210,000
(繰 越 商 品) 250,000	(仕 入) 250,000
(棚 卸 減 耗 損) 10,000	(繰 越 商 品) 10,000
(商 品 評 価 損) 31,500	(繰 越 商 品) 31,500
(仕 入) 31,500	(商 品 評 価 損) 31,500



なお、正味売却価額は時価に相当する概念です。

- 期末商品帳簿棚卸高
@ 500円 × 500個 = 250,000円
- 棚卸減耗損
@ 500円 × (500個 - 480個) = 10,000円
- 商品評価損
(@ 500円 - @ 450円) × 430個 = 21,500円
(@ 500円 - @ 300円) × 50個 = 10,000円
合計 31,500円
- 貸借対照表価額
@ 500円 × 500個 - (10,000円 + 31,500円)
= 208,500円

問題1-5

精 算 表

勘 定 科 目	残高試算表		修 正 記 入		損益計算書		貸借対照表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	600						600	
売 掛 金	2,000						2,000	
売買目的有価証券	700			400			300	
繰越商品	600		1,000	600			640	
				200				
				160				
建 物	3,000						3,000	
買 掛 金		2,000						2,000
貸倒引当金		20		20				40
減価償却累計額		270		540				810
資 本 金		1,000						1,000
利 益 準 備 金		210						210
繰越利益剰余金		300						300
売 上		6,000				6,000		
受 取 利 息		400				400		
仕 入	3,000		600	1,000	2,760			
			160					
給 料	300		60		360			
	10,200	10,200						
貸倒引当金(繰入)			20		20			
(減 価 償 却 費)			540		540			
(棚 卸 減 耗 損)			200		200			
(商 品 評 価 損)			160	160				
(有価証券評価損)			400		400			
未 払 給 料				60				60
当 期 純 (利 益)					2,120			2,120
			3,140	3,140	6,400	6,400	6,540	6,540

解答への道

以下、決算整理事項の仕訳を示しておきます。

1. 貸倒引当金の計上

(貸倒引当金繰入)	20*	(貸 倒 引 当 金)	20
-----------	-----	-------------	----

$$* \frac{2,000 \text{ 円}}{\text{売掛金}} \times 2 \% - \frac{20 \text{ 円}}{\text{貸倒引当金残高}} = 20 \text{ 円}$$

2. 減価償却費の計上

(減 価 償 却 費)	540	(減価償却累計額)	540
-------------	-----	-----------	-----

3. 売上原価の計算と期末商品の評価

なお、商品評価損は売上原価に算入します。

(仕 入)	600	(繰越商品)	600
(繰越商品)	1,000	(仕 入)	1,000
(棚卸減耗損)	200	(繰越商品)	200
(商品評価損)	160	(繰越商品)	160
(仕 入)	160	(商品評価損)	160

原価 @50円	*1 期末商品帳簿棚卸高1,000円	
	*3 商品評価損 160円	*2 棚卸減耗損 200円
時価 @40円	B/S「繰越商品」 640円	
	実地 帳簿 16個 20個	

なお、正味売却価額は時価に相当する概念です。

*1 期末商品帳簿棚卸高 @50円×20個=1,000円

*2 棚卸減耗損 @50円×(20個-16個)=200円

*3 商品評価損 (@50円-@40円)×16個=160円

4. 有価証券評価損の計上

(有価証券評価損)	400	(売買目的有価証券)	400
-----------	-----	------------	-----

5. 未払給料の計上

(給 料)	60	(未 払 給 料)	60
-------	----	-----------	----

以上の仕訳を修正記入欄に記入して、精算表を作成します。

* 利益準備金と繰越利益剰余金は純資産（資本）の勘定です。

問題1-6

繰越商品	
4/1 前期繰越 (100,000)	3/31 (仕 入) (100,000)
3/31 (仕 入) (120,000)	〃 (棚卸減耗損) (10,000)
	〃 (商品評価損) (5,500)
	〃 (次期繰越) (104,500)
	<u>(220,000)</u>
4/1 前期繰越 (104,500)	<u>(220,000)</u>

棚卸減耗損	
3/31 (繰越商品) (10,000)	3/31 (損 益) (10,000)

商品評価損

3/31 (繰越商品) (5,500)	3/31 (仕 入) (5,500)
---------------------	--------------------

仕 入	
総仕入高 (560,000)	3/31 (繰越商品) (120,000)
3/31 (繰越商品) (100,000)	〃 (損 益) (545,500)
〃 (商品評価損) (5,500)	
<u>(665,500)</u>	<u>(665,500)</u>

売 上	
3/31 (損 益) (1,094,000)	総売上高 (1,094,000)

損 益	
3/31 (仕 入) (545,500)	3/31 (売 上) (1,094,000)
〃 (棚卸減耗損) (10,000)	

解答への道

1. 期首の開始記入

繰越商品勘定の借方に、期首商品棚卸高を「前期繰越」として記入します。

2. 期中仕訳および勘定記入

(1) 仕入取引

2 (仕 入) 360,000	(買掛金など) 360,000
4 (仕 入) 200,000	(買掛金など) 200,000

* 仕入勘定「総仕入高」: 360,000円 + 200,000円 = 560,000円

(2) 売上取引

3 (売掛金など) 450,000	(売 上) 450,000
5 (売掛金など) 644,000	(売 上) 644,000

* 売上勘定「総売上高」: 450,000円 + 644,000円 = 1,094,000円

3. 決算整理仕訳

(1) 期末商品棚卸高の計算

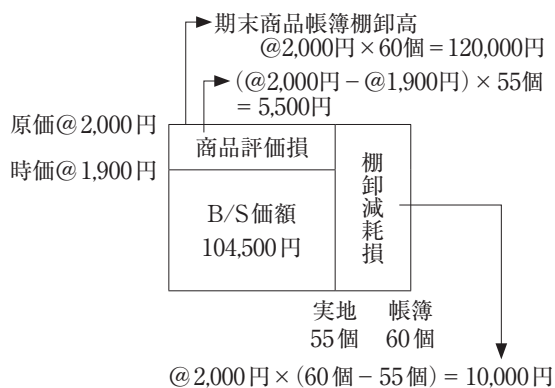
先入先出法のため、最終の仕入単価@2,000円で60個分を計算します。下記の商品有高帳を参照。

商 品 有 高 帳

日付		摘 要	受 入 高			払 出 高			残 高		
			数 量	単 価	金 額	数 量	単 価	金 額	数 量	単 価	金 額
	1	前期繰越	50	2,000	100,000				50	2,000	100,000
	2	仕 入	150	2,400	360,000				{ 50	2,000	100,000
									{ 150	2,400	360,000
	3	売 上				{ 50	2,000	100,000			
						{ 50	2,400	120,000	100	2,400	240,000
	4	仕 入	100	2,000	200,000				{ 100	2,400	240,000
									{ 100	2,000	200,000
	5	売 上				{ 100	2,400	240,000			
						{ 40	2,000	80,000	60	2,000	120,000

(2) 売上原価の算定および期末商品の評価

(仕 入) 100,000	(繰 越 商 品) 100,000
(繰 越 商 品) 120,000	(仕 入) 120,000
(棚卸減耗損) 10,000	(繰 越 商 品) 10,000
(商品評価損) 5,500	(繰 越 商 品) 5,500
(仕 入) 5,500	(商品評価損) 5,500



なお、正味売却価額は時価に相当する概念です。

4. 勘定の締め切り

(1) 決算振替仕訳

・収益の振り替え

(売 上) 1,094,000	(損 益) 1,094,000
-----------------	-----------------

・費用の振り替え

(損 益) 555,500	(仕 入) 545,500
	(棚卸減耗損) 10,000

(2) 繰越記入

繰越商品勘定（資産）の残高104,500円について繰越記入を行います。

02 特殊商品売買

問題2-1

(1)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	現金	4,000,000	前受金	4,000,000
②	前受金	800,000	売上	800,000
③	前受金	800,000	売上	800,000

(2)

前受金		売上	
② 800,000	① 4,000,000		② 800,000
③ 800,000			③ 800,000

(3)

残高試算表

現金 (4,000,000)	前受金 (2,400,000)
	売上 (1,600,000)

解答への道

予約販売に係る一連の処理を確認する問題です。

内金、予約金等の名目で販売代金の一部を先に受け取り、後日に商品の引渡しを行う販売形態を予約販売といいます。

1. 予約金等を受け取ったとき

予約金等の受取額を「前受金」(負債)で処理します。

2. 商品を引き渡したとき

引き渡した商品の分だけ「前受金」を取り崩し、「売上」を計上します。

3. 残高試算表について

以下の勘定科目の金額に留意します。

「前受金」: 2,400,000円

引き渡しをしていない美術全集3巻分の予約金の金額 (@8,000円 × 3巻 × 100セット)

「売上」: 1,600,000円

引き渡した美術全集2巻分の販売金額 (@8,000円 × 2巻 × 100セット)

問題2-2

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	現金	48,000,000	前受金	48,000,000
(2)	前受金	4,500,000	売上	4,500,000

解答への道

(1) 予約販売では、実際に商品の引き渡しがあったときに売上げを計上します。それまで、受け取った予約金は商品を引き渡す義務を表す前受金勘定(負債)で処理しておきます。

(2) 予約販売では、先方に商品を引き渡した時点で引き渡した商品分4,500,000円だけ売上げを計上します。なお、本問では、すでに関越出版株式会社は900名の顧客からの予約金を受け取っており、それを前受金勘定で処理していることを判断しなければなりません。

(1) 予約金、内金、手付金の受取り時

(○ ○) ×× (前受金) ××

(2) 商品の引渡し時

(前受金)	××	(売上)	××
引き渡した商品分のみ			

問題2-3

(1)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	未着品	500,000	買掛金	500,000
②	仕入	100,000	未着品	100,000
③	売掛金	280,000	未着品売上	280,000
	仕入	200,000	未着品	200,000

(2)

未着品		未着品売上	
① 500,000	② 100,000		③ 280,000
	③ 200,000		
仕入			
② 100,000			
③ 200,000			

(3)

残高試算表

売掛金 (280,000)	買掛金 (500,000)
未着品 (200,000)	未着品売上 (280,000)
仕入 (300,000)	

解答への道

手許商品区分法による未着品販売の処理を確認する問題です。

運送業者が発行する貨物代表証券によって表される商品を未着品といい、この貨物代表証券（船荷証券、貨物引換証）を商品に準じて転売する取引を未着品販売と言います。

1. 貨物代表証券を受け取ったとき

取得した貨物代表証券の金額を「未着品」（資産）で処理します。

2. 貨物代表証券と引き換えに商品を引き取ったとき
引き取った商品の原価を「未着品」から「仕入」に振り替えます。

3. 貨物代表証券を転売したとき

商品の販売に準じてその売価をもって「未着品売上」を計上します。また、その原価（売上原価）を「未着品」から「仕入」に振り替えます（手許商品区分法：その都度法）。

4. 残高試算表について

以下の勘定科目の金額に留意します。

(1) 「未着品」：200,000円

貨物代表証券の有高（500,000円－100,000円－200,000円）

(2) 「仕入」：300,000円

商品の引取額＋未着品販売に係る売上原価（100,000円＋200,000円）

問題2-4

(1)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	仕入	750,000	買掛金	750,000
②	売掛金	200,000	売上	200,000
③	積送品	300,000	仕入	300,000
	委託販売	337,500	積送品売上	375,000
④	積送諸掛	37,500		
	仕入	225,000	積送品	225,000

(2)

仕入		売上	
① 750,000	③ 300,000		② 200,000
④ 225,000			
積送品		積送品売上	
③ 300,000	④ 225,000		④ 375,000

(3)

残高試算表

売掛金 (200,000)	買掛金 (750,000)
委託販売 (337,500)	売上 (200,000)
積送品 (75,000)	積送品売上 (375,000)
仕入 (675,000)	
積送諸掛 (37,500)	

解答への道

手許商品区分法による委託販売の処理を確認する問題です。

代理店等の第三者に商品の販売を委託する販売形態を委託販売と言います。

1. 受託者に商品を発送したとき

発送した商品の原価を「仕入」から「積送品」（資産）に振り替えます。

2. 仕切精算書（売上計算書）を受け取ったとき

(1) 仕切精算書の内容にもとづき受託者による販売高または手取額をもって「積送品売上」を計上します。なお、このとき販売代金の未収分は「委託販売」または「積送売掛金」により処理します。

(2) 受託者の販売高を「積送品売上」として計上したときは、販売手数料等の諸掛りを「積送諸掛」（費用）として計上します。

- (3) 販売された積送品の原価を売上原価として認識し、「積送品」から「仕入」に振り替えます（手許商品区分法：その都度法）。

4. 残高試算表について

以下の勘定科目の金額に留意します。

- (1) 「積送品」：75,000円

積送品の有価：(200個 - 150個) × @1,500円

- (2) 「仕入」：675,000円

手許商品の仕入高 + 委託販売に係る売上原価：
(500個 - 200個 + 150個) × @1,500円

問題2-5

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	積送品	125,000	仕入	120,000
			現金	5,000
(2)	委託販売	133,800	積送品売上	144,000
	積送諸掛	10,200		
	仕入	125,000	積送品	125,000

* 委託販売勘定は積送売掛金勘定または積送未収金勘定でも正解です。

解答への道

1. 商品積送時の処理

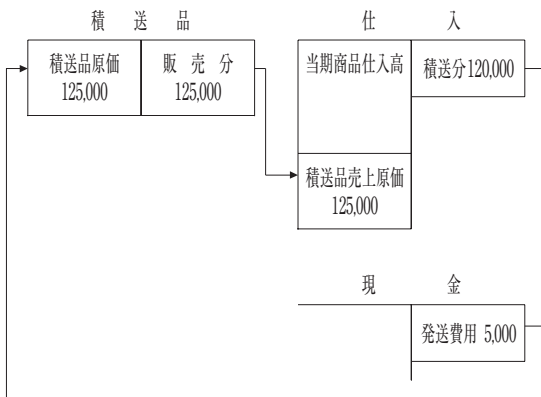
問題文の指示により、発送費用は積送諸掛勘定を用いず積送品勘定に加算します。

2. 売上計算書（仕切精算書）が送られてきたとき

委託者は通常、このときに委託品の販売分の売上を計上します。また、売上計算書にある諸掛りは受託者の立替分（委託者である当社の費用）であるため、総売上高を売上に計上しその立替分を積送諸掛として処理します。

販売された委託商品の原価（売上原価）は、問題文の指示により仕入勘定に振り替えます。

3. 勘定図



なお、「手取金をもって売上げに計上する方法」では、次のようになります。

(委託販売) 133,800 (積送品売上) 133,800
(仕入) 125,000 (積送品) 125,000

問題2-6

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	受託販売	5,000	現金	5,000
②	現金	200,000	受託販売	800,000
	売掛金	600,000		
③	受託販売	90,000	保管料	10,000
			受託販売手数料	80,000
④	受託販売	705,000	当座預金	705,000

* ③の受託販売手数料勘定は受取手数料勘定でも正解です。

受託販売			
①	5,000	②	800,000
③	90,000		
④	705,000		

解答への道

受託販売の一連の流れに関する仕訳問題です。

- 受託者（東京商店）が支払った引取運賃は、委託者（大阪商店）が負担すべきものですから、立替払いをしたことになります。受託販売においては、委託者に対する債権や債務は受託販売勘定で処理します。

- 受託商品を売り渡したときは、商品代金が委託者に対する負債となるので受託販売勘定で処理します。

- 売上計算書（仕切精算書）を作成したときに、委託者負担の諸掛りのうち、受託販売勘定に計上されていないものがあれば仕訳します。本問では、すでに支払い済みの保管料のうち、委託者負担分を受託販売勘定へ振り替えます。なお、保管料を支払ったときの仕訳は次のとおりになります。

(保管料) 10,000 (現金等) 10,000

また、受託品を販売したことに対する手数料は受託販売手数料勘定（収益）で計上します。

- 委託者に対する債務をすべて支払うと、受託販売勘定の残高は、ゼロになります。

問題2-7

(1)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	仕 入	600,000	買 掛 金	600,000
②	売 掛 金	280,000	売 上	280,000
③	試 用 品	300,000	仕 入	300,000
④	売 掛 金	300,000	試用品売上	300,000
	仕 入	200,000	試 用 品	200,000
⑤	仕 入	60,000	試 用 品	60,000

(2)

仕 入		売 上	
① 600,000	③ 300,000		② 280,000
④ 200,000			
⑤ 60,000			
試 用 品		試用品売上	
③ 300,000	④ 200,000		④ 300,000
	⑤ 60,000		

(3)

残高試算表

売 掛 金 (580,000)	買 掛 金 (600,000)
試 用 品 (40,000)	売 上 (280,000)
仕 入 (560,000)	試用品売上 (300,000)

解答への道

手許商品区分法による試用販売の処理を確認する問題です。

商品を一定の期間試用してもらい、買い取りの意思表示を受けたときに売上の認識を行う商品の販売形態を試用販売といいます。

1. 顧客に商品を発送したとき

発送した商品の原価を「仕入」から「試用品」(資産)に振り替えます。

2. 買い取りの意思表示を受けたとき

「試用品売上」を計上します。また、販売された試用品の原価を売上原価として認識し、「試用品」から「仕入」に振り替えます(手許商品区分法:その都度法)。

3. 残高試算表について

以下の勘定科目の金額に留意します。

「試用品」: 40,000円

積送品の有高: $(150\text{個} - 100\text{個} - 30\text{個}) \times @2,000\text{円}$

「仕入」: 560,000円

手許商品の仕入高 + 試用販売に係る売上原価:
 $(300\text{個} - 150\text{個} + 100\text{個} + 30\text{個}) \times @2,000\text{円}$

問題2-8

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	試用販売契約	6,600,000	試用仮売上	6,600,000
(2)	売 掛 金	3,600,000	試 用 売 上	3,600,000
	試用仮売上	3,600,000	試用販売契約	3,600,000
(3)	試用仮売上	3,000,000	試用販売契約	3,000,000

* (1)は(借方)試用販売売掛金、(貸方)試用販売でも正解です。

解答への道

試用販売では、商品を発送したときではなく、取引先が買い取りの意思表示をしたときに売上収益を計上します。

問題2-9

	借方科目	金額	貸方科目	金額
(1)	割賦売掛金	200,000	割 賦 売 上	200,000
(2)	当 座 預 金	40,000	割賦売掛金	40,000

* 割賦売掛金勘定は売掛金勘定でも正解です。
 割賦売上勘定は売上勘定でも正解です。

解答への道

本問は割賦販売の販売基準による処理です。

- 商品を送付もしくは引き渡した時点で売上げを計上し、借方は、割賦売掛金に記入します。
- 第1回目の代金が入金されたので、割賦売掛金を貸方に記入し、入金処理を行います。

問題2-10

(1)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	仕 入	500,000	買 掛 金	500,000
②	割賦販売契約	750,000	割 賦 仮 売 上	750,000
③	現 金	150,000	割 賦 売 上	150,000
	割 賦 仮 売 上	150,000	割賦販売契約	150,000
④	現 金	150,000	割 賦 売 上	150,000
	割 賦 仮 売 上	150,000	割賦販売契約	150,000

(2)

仕 入		割 賦 売 上	
①	500,000		③ 150,000
			④ 150,000
割賦販売契約		割 賦 仮 売 上	
②	750,000	③	150,000
		④	150,000

(3)

残 高 試 算 表			
現 金 (300,000)	買 掛 金 (500,000)		
割賦販売契約 (450,000)	割 賦 売 上 (300,000)		
仕 入 (500,000)	割 賦 仮 売 上 (450,000)		

解答への道

割賦販売（回収基準：対照勘定法）の処理を確認する問題です。

販売代金を数回に分割して回収していく商品の販売形態を割賦販売といいます。

1. 商品を引き渡したとき

引き渡した商品の売価を対照勘定を用いて記録します。

2. 代金を回収したとき

回収した金額について「割賦売上」を計上します。また、回収した分だけ対照勘定を消去します。

3. 残高試算表について

以下の勘定科目の金額に留意します。

(1) 「割賦販売契約，割賦仮売上」：450,000円

販売代金の未回収額：750,000円－150,000円
× 2 回分

(2) 「割賦売上」：300,000円

販売代金の回収額：150,000円× 2 回分

問題2-11

精 算 表

勘 定 科 目	残高試算表		修 正 記 入		損益計算書		貸借対照表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
売 掛 金	302,000		45,000				565,000	
			218,000					
繰 越 商 品	163,000		233,000	163,000			206,500	
				18,000				
				8,500				
未 着 品	85,000			30,000			55,000	
試 用 品	150,000			150,000				
貸 倒 引 当 金		2,350		8,950				11,300
一 般 売 上		1,930,000				1,930,000		
未 着 品 売 上		861,000		45,000		906,000		
試 用 品 売 上		734,000		218,000		952,000		
仕 入	2,850,000		30,000	233,000	2,960,000			
			150,000					
			163,000					
棚 卸 減 耗 損			18,000		18,000			
商 品 評 価 損			8,500		8,500			
貸 倒 引 当 金 繰 入			8,950		8,950			

解答への道

1. 貨物代表証券の転売（未処理事項）

「未着品売上」を計上します。また、その原価を売上原価として「未着品」から「仕入」に振り替えます。本問において、「未着品」の売上原価を「仕入」に振り替える指示はありませんが、決算において「仕入」で売上原価を算定する必要があるため、指示がなくてもこの処理を行います。

(売 掛 金)	45,000	(未 着 品 売 上)	45,000
(仕 入)	30,000	(未 着 品)	30,000

2. 試用品の販売（未処理事項）

「試用品売上」を計上します。また上記、未着品販売と同様の理由により、指示がなくとも、その原価を売上原価として「試用品」から「仕入」に振り替えます。

(売 掛 金)	218,000	(試 用 品 売 上)	218,000
(仕 入)	150,000	(試 用 品)	150,000

3. 売上原価の算定および期末商品の評価

(1) 売上原価の算定

期首手許商品の金額163,000円を「繰越商品」から「仕入」に振り替え、期末手許商品の金額233,000円を「仕入」から「繰越商品」に振り替えます。なお、「未着品売上」「試用品売上」の売上原価はすでに「仕入」に振り替えているため、この処理を行うことにより、「一般売上」「試用品売上」および「未着品売上」に係る売上原価が「仕入」により算定されます。

(仕 入)	163,000	(繰 越 商 品)	163,000
(繰 越 商 品)	233,000	(仕 入)	233,000

(2) 期末商品の評価

(棚 卸 減 耗 損)	18,000	(繰 越 商 品)	26,500
(商 品 評 価 損)	8,500		

棚卸減耗損：233,000円－215,000円＝18,000円

4. 貸倒引当金の設定

(貸倒引当金繰入)	8,950	(貸 倒 引 当 金)	8,950
-----------	-------	-------------	-------

貸倒見積額：(302,000円＋45,000円＋218,000円)
× 2 % ＝ 11,300円

繰入額：11,300円－2,350円＝8,950円